

18

694

蜜

蜂

全

065077-000-1

18-694

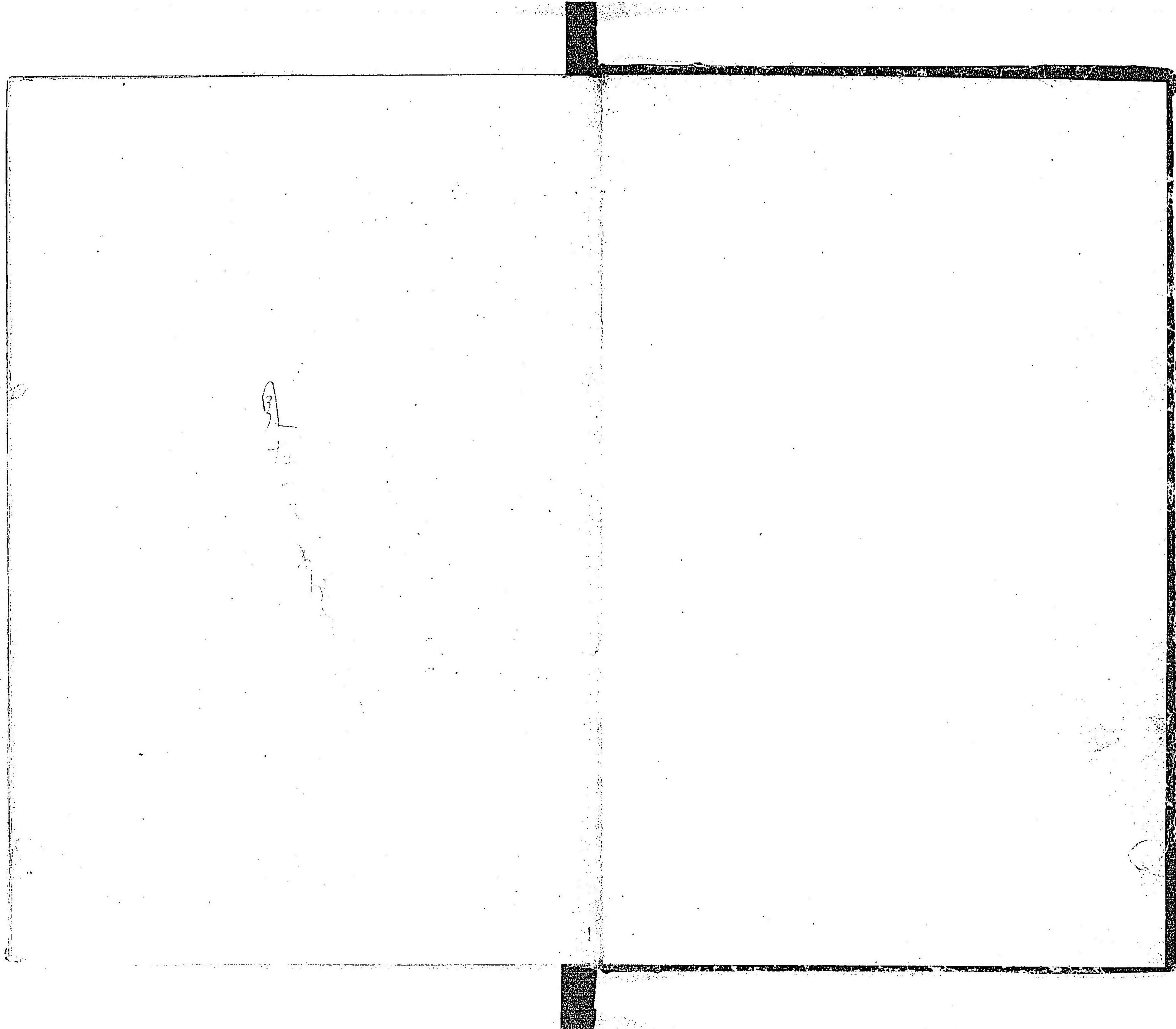
蜜蜂

青柳 浩次郎 / 著

M29.3

CCD-0555





3

7

8

18-694

青柳浩次郎著



蜜蜂

青柳浩次郎寄贈本

全

東京 農業社藏版

自序

余は蜜蜂飼養の利益あるを知る又我邦養蜂
術の甚だ拙なるを知る是を以て數年前より
之が研究に従事し又其利益あるを説きて之
が飼養を世人に勧めたり近來養蜂に注目す
るもの漸く多く余が淺學を以てせず其飼養
法を問はれ或は實驗したる所を記述して世
に公にせんを勸むる甚だ切なり遂に不文
を顧みず數年來經驗したる所を述べて遂に
本書を公にす讀者諸君幸に此の利益ある業

を等閑に付せしめ本書をして多少世に裨益する所あらしめよ

明治廿九年三月

青柳浩次郎識

例言

- 一 本書は余が數年來の經驗を記述し傍ら歐米大家の所説を参照したり
- 一 本書は文章成る可く簡易にして解し易く實用を旨とす
- 一 本書は高尙の理論は力めて之を避け蜂牀の解剖機關の構成等には論及せざるなり
- 一 本書中蜂の巢を巢脾と云ひ巢脾の穴を房と云ひ繁殖するを分封と云ひ蜂を入れて巢を造營せしむる箱を巢箱と云ひ其入口を巢門と云ひ巢脾を造營せしむる框を巢框と云ふ
- 一 著者の謬劣なる且つ俗事多忙爲めに粗漏の點鮮から

す字句は専ら達意を旨とし飾文に違あらず讀者乞ふ
諒せよ

著 者 識

蜜蜂 目次

緒論	一
蜜蜂の性質	三
蜂兒の成育	七
巢脾	一〇
分封	一二
養蜂場	一七
巢箱	二〇
管理法	二九
蜂蜜採取及製蠟法	三四
蜂群合同法	四一
種蜂	四四

蜂巢運搬法……………四八

蜜蜂の疾病及害敵……………五三

蜜蜂は作物に害なき事……………五九

蜜蜂 目次終

蜜 蜂

青柳浩次郎著

緒 論

農の仕事は山師的の仕事に非らず一擧に巨萬の富を得るが如きは農業の仕事に非らざるなり一厘一錢の利益を積んで安全に其業を執るは農業の本分なり殊に我國の如き小規模の農業にありては種々の副産物を出して以て収入を多からしめざる可からず蜜蜂を養ふか如きは最も良き副業にして其利益少なからざるものあり

我國は氣候温和にして土地膏腴天然の草花は原野に滿ち蔬菜果樹の花は到る所に多し蜜蜂を養ふ敢て山間の地のみに限らず穀菽菜果の花に富める地にては十箱乃至二十箱を飼養する敢て難きことに非ら

す又た曠原山野の多き地方にては數十箱乃至數百箱を飼養して十分利益ある者なり然るに今日此の貴重なる花中の蜜液を放棄して種々の害虫の腹を肥すは思はざるの至りなり夫れ養蜂の仕事たるや別に食物を興ふる者に非らざれば多くの資本と費用とを要するものに非ず初め種蜂を購入し巣箱を製造するに些少の費用を要するのみなれば我國の農家二三の蜜蜂を飼養して自家用の砂糖に代用するも其味高尙に之を賣るも價廉ならずして其利益少なからざるべし

從來我國山間の農家にて蜜蜂を養ふものありと雖ども其の飼養法を知らず營に天然に委する者なれば収蜜の量甚た少く且つ蜜劣等にして價廉に利益を見る事少し然るに西洋にては夙に能く之に注目研究し今日に至りては實に驚くべき進歩を著し飼養法益々改良して収蜜の量甚た多く一箱より収蜜五六十斤より百斤以上に達し其の利益

甚た少なからすと云ふ我邦養蜂を爲さんとするもの宜しく改良法に依りて之を飼養するを力めざる可らず

蜜蜂飼養に就て其蜂蜜の販路を氣遣ふ者ありと雖ども今日の商況は上等蜂蜜は常に不足を告げ決して販路に苦しむ様の事なかるへし蓋し往古は甘味の原料皆な此蜂蜜に取りしものにて甘蔗より甘味を採収する發明ありしより主に薬用として用ひられしが今や又其の甘味の高尙なるを以て再び食用として用ひられんとし近來西洋料理等に蜂蜜を用ひるに至りたれば今後益々其の需用は増加するに至るべく農家の副産物として此上もなきよき仕事なりとす

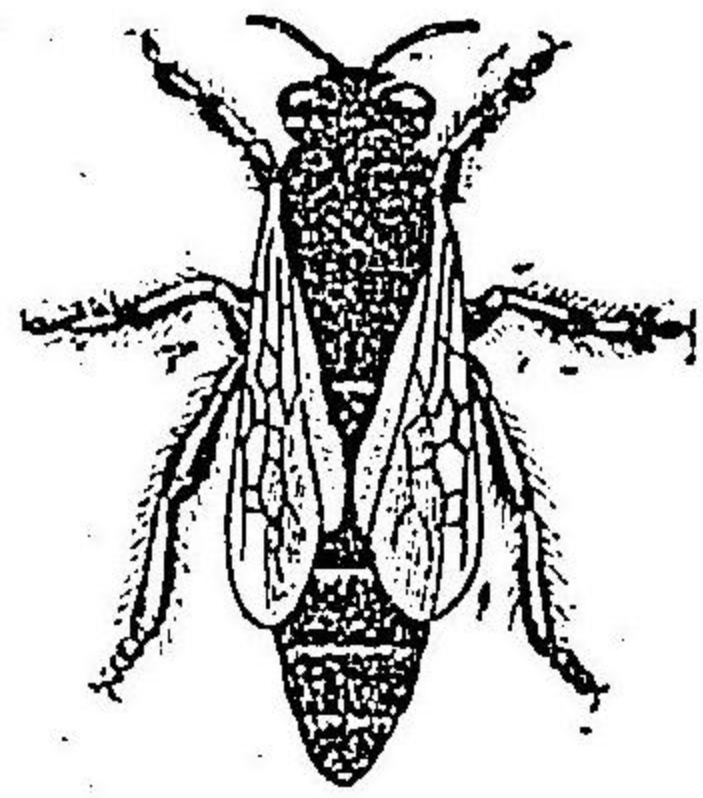
蜜蜂の性質

蜜蜂は數万の蜂集合して互ひに助け合ふて生活し協力一致して一の

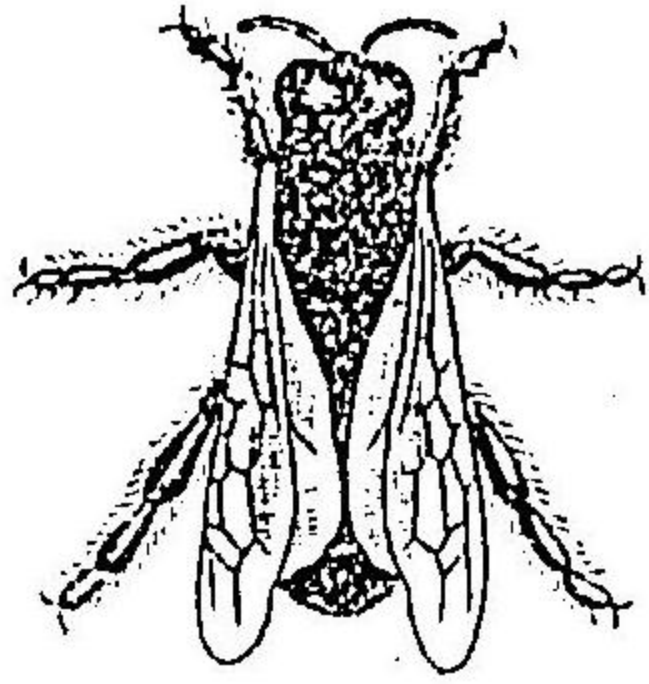
巢を保持するものにて決して獨立しては生活すると能はざるものなり其の數万の蜂群中には三の異なる性質を有する蜂あり蜂王雄蜂働蜂是れなり其の中雄蜂は分封前(四五月頃)に生出し漸く減し晩秋には一も存在せずして其の後は蜂王と働蜂にて一族を爲すものなり

第一圖は蜂王にして群中唯一の充分發達成長せる雌蜂なり軀最も大にして其色は黒褐色に光澤を帯び腹脛の部は茶褐色なり翅は短くして僅かに腹の第四節に達するのみ其の本務は卵を産出するものにして數万の蜂群は皆此の一蜂王の産出する所なり其の多産なる實に驚くへし故に一度交尾せば其の後は常に巢中において産卵に従事し外出する事なし故に蜂王は巢中を管治するの君主に非ずして勞作する所の慈母なりとす故に巢中の盛衰強弱は一に此蜂王に依るものなれば其の家を愛するに熱心なる衆蜂は専心專意能く之れを奉戴するものなり

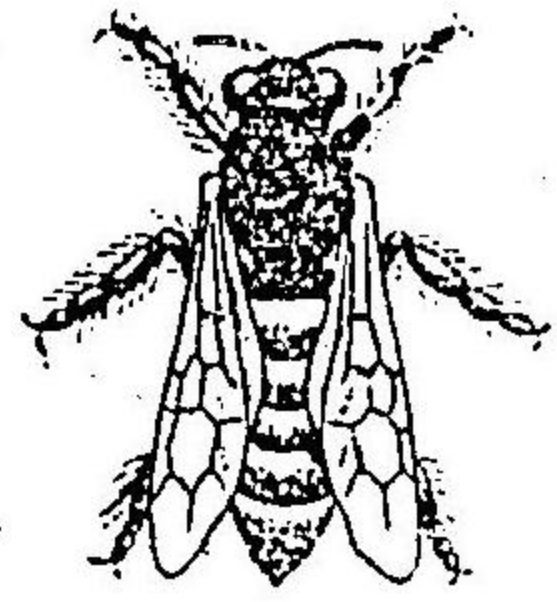
圖一第



圖二第



圖三第



なり

第二圖は雄蜂にして働蜂より稍大にして色黒く翅長くして尻に棘なく只た生殖器を有す蜂王と交接する外は他に何等の用もなく徒に蜜を食するのみなり故に蜂王一度交尾して後は眞の無用なる者なれば初秋の候には働蜂の爲めに巢内を追ひ出され或は咬み殺さるゝものなり

第三圖は働蜂にして群中最も多數なる蜂にして十分に發達せざる雌蜂なり故に産卵せざ然れども蜂王を失ひたる時は不完全なる卵を産む者あり働蜂は形小にして幼稚の時は灰黄色なれとも老蜂は暗褐色なり而して蜜を充分啣むときは体

は伸て黄色の体輪を現すと多し蜜の採取巢脾の造營幼蛆の保育其の他一切の勞働皆此の働蜂の仕事なり

蜜蜂の物を視或は嗅ぐの力は甚た銳利なるものにして能く遠き距離に於ける物を見出し又嗅き出すものなり又四方に飛遊して蜜を尋ね彼是れ彷徨して久しきを經るも能く已か巢の方向と位地とを知りて歸り來るは實に奇とすべきなり

其の性質は實に溫和にして愛す可きものなり殊に春時花盛りにして蜜を採取するに忙はしきときは甚た溫和柔平にして容易に怒つて人を螫すとあさも百花漸く謝し蜜の採取閑暇あるに至るときは少しく刺激し易し然れども他の蜂族の如く狼りに憤怒して人を螫すものに非らざるなり

蜜蜂の脛には花粉を荷ふて運ぶ花粉盞と云へるものあり又其の腹中

に蜜を入れて運ぶへき蜜囊と云ふものあり(胃腑とは異なり)而して能く勤勉とべき性質を有し天候温暖に向ひ百花開くの頃に至れば蜜蜂は他より獎勵せられずして巢内を出て蜜及び花粉を採取するに怠らず若し其巢内に充分食物を充し最早充たすべき所なきときは漸く怠惰なりと雖ども又之に興ふるに多くの空所を以てすれば又其空所を充たさんとして頻りに運働勉強するものなり蜜蜂に斯の如き勉強の性質あるは是れ即ち養蜂家の利益を澤山に得らるゝ所以なりとす

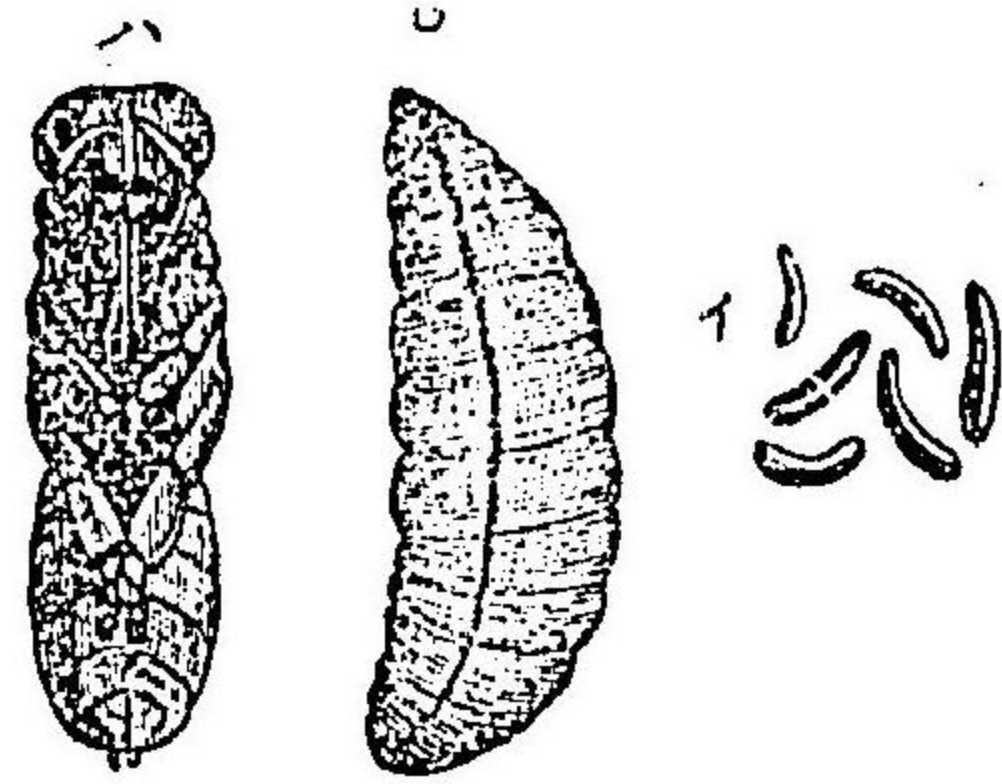
蜂兒の成育

前に記せし如く數万の蜂群は唯一の蜂王の産む所にして蜂王は二様の卵を産す一は雌蜂卵にして一は雄蜂卵あり其の雌蜂卵は多くは働蜂とありて出て或は蜂王と爲るものあり働蜂卵と蜂王卵とは毫も異

なるものに非ずして其の食物の如何に依りて或は働蜂となり或は蜂王と爲る實に妙なりと云ふ可し春候花盛んに開くときに至れば蜂は蜜の採取に忙はしく働蜂の澤山入用なるときは蜂王は盛んに雌蜂卵を生み盛んに働蜂を生し而して働蜂大に繁殖し分封を爲すべき時に至れば働蜂は雄蜂の房を作り蜂王は之れに雄蜂卵を生む働蜂は次て王臺を造るときは蜂王は之れに雌蜂卵を産む此の王臺中の卵孵化するときは働蜂は多くの濃厚にして白色なる食物即ち一種特別の調合物を以て之れを養ふ定期に至りて蜂王となりて生出し茲に分封を爲すものなり此の食物は即ち蜂王体を造るべき一種の最良滋養物なるべし此食物を以て養ふときは働蜂房へ産せし卵も蜂王となりて生出するものなり故に若し蜂王の亡失したる場合には働蜂は働蜂房に於る卵を擁立して王臺を築きて新蜂王を生せしむることあり又た人爲

第四

圖



を以て働蜂房の卵を王臺の中に移し入るゝも同しく蜂王となりて生出するは余の數々實驗する所なり
 大凡蜂卵は産出より三日位にして孵化し蛆となり五六日にして其の房の蓋を閉づ其蓋雄蜂房は凸起して働蜂房より超出し容易に見分けるを得べし又王臺の蓋せしものは其の形乳房に似たり蛆は茶褐色なる絲を吐きて繭を造る其の繭は最も薄きものにして房の内面に附着して見へず巢の古きものは其の色黒色となるは即ち其の繭の重さなるが故なり而して其の蛆は二三日にして蛹と化し尙ほ數日にして房の蓋を破りて出房する者なり第四圖(イ)は蜂卵にして(ロ)は蛆(ハ)は蛹の形を示したるものなり而して卵より房を出つ

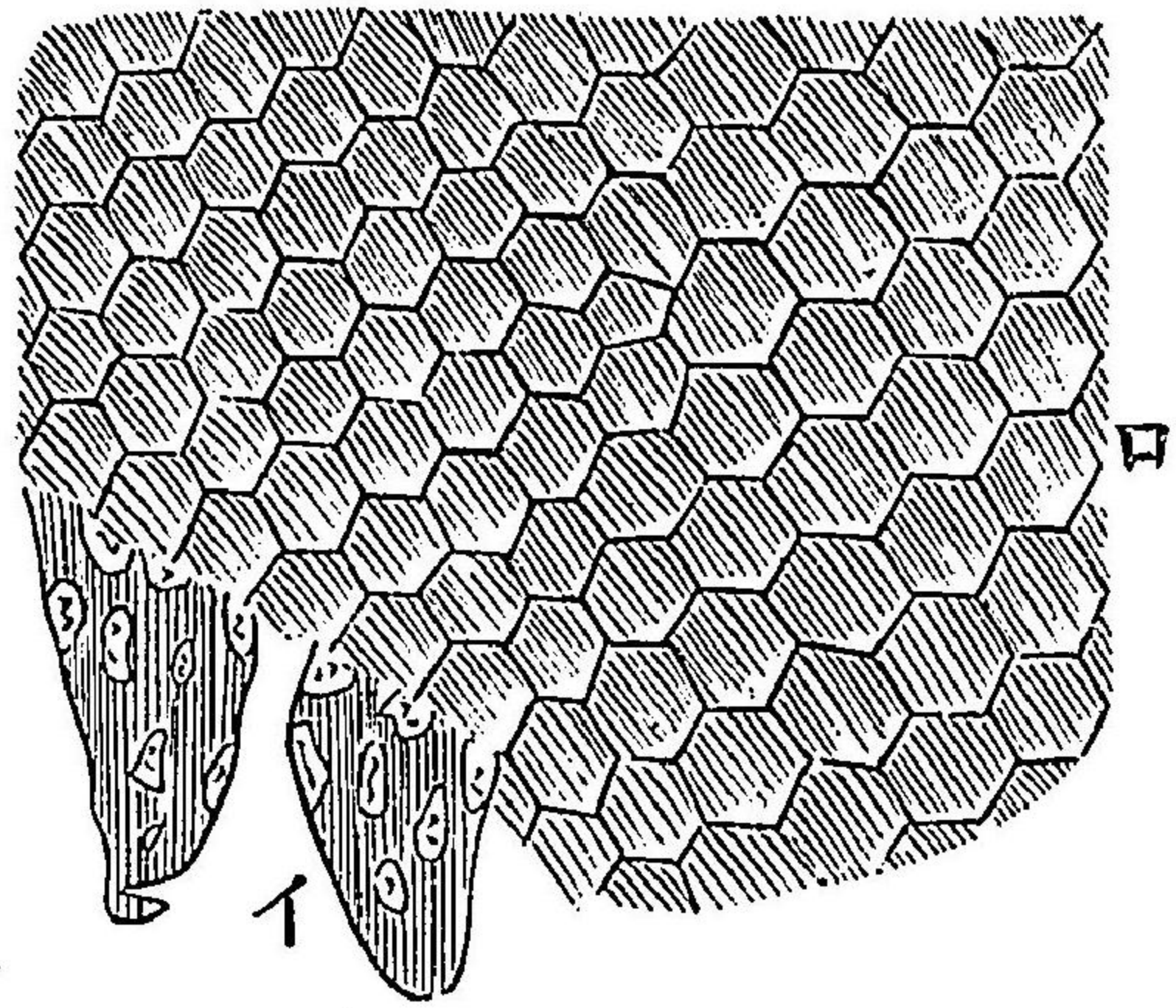
るまでは蜂に依りて長短あり蜂王は十六日働蜂は廿一日雄蜂は廿四日而して亦時候と場合とに依り又多少の遅速あり左に蜂兒の發達順序を比較せは左の如し

	卵	蛆	休眠	蛹	合計
蜂王	三日	六日半	二日半	四日	十六日
働蜂	三日	八日	二日半	七日半	廿一日
雄蜂	三日	八日半	三日	九日半	廿四日

巢脾

巢脾は蜂の兒を育て蜜及び花粉を貯ふる所なり第五圖は巢脾の一部にして圖中イは王臺(ロ)は雄蜂房(ハ)は働蜂房なり蜜蜂の巢脾は普通

第五圖

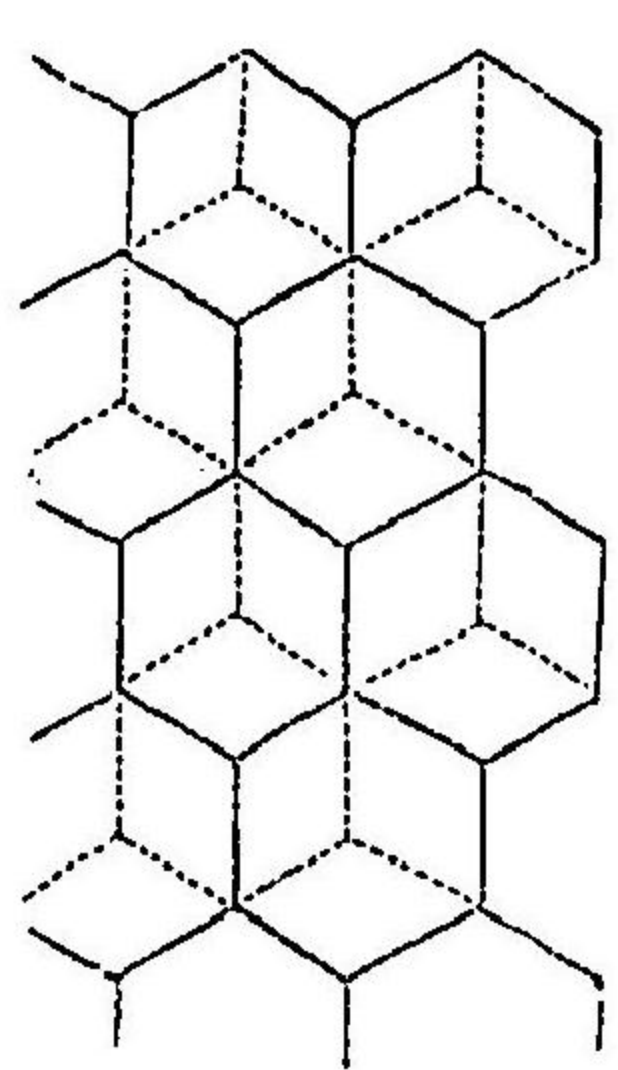


の蜂の巢と異なり横に面し上部より縦に垂下して兩面に小房あり此の小房は即ち働蜂雄蜂の房にして又蜜及花粉を貯ふる用に供す雄蜂房は働蜂房より稍大なり獨り王臺は下方に面し内廣く其の構造甚た堅固にして一見して是れ王城なるかの觀あり又蜜を貯ふる房と兒を育つる房とは敢て區別あるにあらずして蜂兒の出房せし跡へ蜜を貯へ蜜の空房へ又卵を産むものおれども總して上部は大抵蜜を貯へ下部は産卵して兒を育つる用に充つるものなり

其の拵へ方は實に絶妙にして小な

面^{めん}積^{せき}へ多^た量^{りょう}のものを容^{ゆる}るゝに適^あするものか^ら其^の壁^{かべ}は最^も脆^{もろ}きものなれども其^の全^{ぜん}体^{たい}は能^よく堅^{けん}固^こなるものなり其^の房^{ぼう}の形^{かたち}は正^{せい}六^{りく}角^{かく}形^{けい}にして第六^{だいろく}圖^ずの如^{ごと}し圖^ず中^{ちゆう}黒^{くろ}線^{せん}は前^{ぜん}面^{めん}にして點^{てん}線^{せん}は後^{こう}面^{めん}なり即^{すなは}ち前^{ぜん}面^{めん}の柱^{はしら}は後^{こう}面^{めん}の底^{そこ}となり互^ひに相^あ持^ぢして以^もて能^よく堅^{けん}固^こに形^{かたち}つくるなり其^の壁^{かべ}の厚^{あつ}さは凡^{およ}そ一分^{いちぶん}の二^に十^{じゅう}五^ご分^{ぶん}の一^{いち}位^いにして巢^{さう}脾^ひの厚^{あつ}さは八^{はち}分^{ぶん}位^いなり而^{しか}して貯^{ちよ}蜜^{みつ}房^{ぼう}は余^{あま}地^ちある時^{とき}は其^の厚^{あつ}さを増^まして一^{いち}寸^{すん}五^ご六^{りく}分^{ぶん}位^いに至^{いた}るものなり其^の巢^{さう}脾^ひと巢^{さう}脾^ひとの間^まは二^に三^{さん}分^{ぶん}位^いにして此^こ間^まは即^{すなは}ち蜂^{はち}の通^か路^ろなりとす

第 六 圖



分封

春^{しゅん}季^き花^{はな}盛^{さか}んにして収^{しゆ}蜜^{みつ}多^たく蜂^{はち}群^{ぐん}大^{だい}に繁^{はん}殖^{しよく}すれば働^{はたら}蜂^{はち}は茲^{こゝ}に王^{わう}臺^{たい}を作^{つく}り蜂^{はち}王^{わう}之^のれに産^う卵^{らん}しやかて此^こ卵^{らん}の孵^ふ化^{くわ}して出^い房^{ぼう}する時^{とき}は一^{いち}王^{わう}は他^たに新^{しん}巢^{さう}を設^{たて}けんとして一^{いち}部^ぶの働^{はたら}蜂^{はち}を率^{ひき}ゐて巢^{さう}を出^いづ之^のれを分^{ぶん}封^{ふう}と云^いふ俗^{ぞく}に子^こ別^{べつ}れと云^いふ通^{つう}例^{れい}四^し月^{げつ}下^か旬^{じゆん}より五^ご六^{りく}月^{げつ}の間^まに起^{おこ}る者^{もの}なり凡^{およ}て分^{ぶん}封^{ふう}の時^{とき}は蜂^{はち}は充^{ちゆう}分^{ぶん}の蜜^{みつ}を含^ふみて二^に三^{さん}日^{じつ}間^{かん}の食^{しょく}料^{りょう}を腹^{はら}中^{ちゆう}に貯^{たくわ}へ居^ゐるを以^もて數^{かず}日^{じつ}間^{かん}食^{しょく}料^{りょう}を採^{さい}取^{しゆ}せずして新^{しん}巢^{さう}を造^{つく}る可^べき場^ば所^{じよ}を探^{たず}り巢^{さう}脾^ひの造^{つく}營^{えい}等^{らう}を爲^なすも決^{けつ}して飢^ううるの憂^{うれ}なし而^{しか}して一^{いち}巢^{さう}箱^{じやう}より分^{ぶん}封^{ふう}の數^{かず}は唯^{ただ}一^{いち}群^{ぐん}なるもあり又^{また}三^{さん}個^こ四^し個^こに及^{およ}ぶとあり

夫^{おとこ}れ蜂^{はち}は一^{いち}群^{ぐん}中^{ちゆう}に兩^{りゆう}蜂^{はち}王^{わう}の在^あるをゆるさずして若^しし兩^{りゆう}王^{わう}ありて其^の相^あ遇^ぐふ時^{とき}は必^{かなら}ず争^{まが}闘^{とう}して一^{いち}王^{わう}の仆^{たふ}るゝに至^{いた}るものなり働^{はたら}蜂^{はち}多^たきときは各^{おの}各^{おの}王^{わう}を護^ご衛^{ゑい}して互^ひに相^あ遇^ぐふを許^{ゆる}さゝれば老^{らう}王^{わう}は遂^{つひ}に分^{ぶん}封^{ふう}して出^いつるに至^{いた}る夫^{おとこ}れより五^ご六^{りく}日^{じつ}を經^へて第^{だい}二^にの分^{ぶん}封^{ふう}あり次^{つぎ}に二^に三^{さん}日^{じつ}にして第^{だい}

三の分封あり又其の翌日位に第四の分封あることあり此時に到りては數王一時に出房して働蜂の數は至りて少許なるを以て蜂王を護衛すること能はず遂に争闘して其の巢は强者の所有に歸するものあり此の時は蜂の最も殺伐の時期にして互に相争闘するのみならず王臺の蓋せる者を横面より噛み破り稚き王を引き出して死せしむる等中々に慘酷を極む分封は必ず天氣晴朗の日午前十時頃より午後一時頃迄に起るを常とすれども今日分封を可き者曇雨等にて明日に延せしものは午前八時頃に起ることあり又分封を始むるも天氣風雨等を催し來るときは停止して皆巢内へ引き込みなり分封の日は朝より勞働すること少なく至て静かなるも俄かに騒ぎ初め或は巢外に出て空中を飛揚し若しくは巢門の外に蟻集し見る間に其の數を増す此時一層火急に巢外へ突出する數多の蜂あり之れ即ち蜂王の出でたるにし

て暫時の後數多の飛揚せる蜂群は近傍の樹林等に至り衆蜂相重て蠢塊を爲す而して巢門外に蟻集せし衆蜂は悉く巢内に退き爰にはしめて静まるものなり分封の時「ボン」等にて空中に噴水するときは早く蠢塊を爲すものなり之れ和洋共に行ふ法なり此分封したる蜂群中に若し蜂王なきか或は殺害せらるゝときは再び本巢に歸るものなるも既に蜂王ありて新巢を營なみ二三日を過れば最早互に敵意を生して相混入するをゆるさざるものなり分封したる蠢塊は二三時間或は一二日間其の所に休息して他に轉じ適當の場所を求めて新巢を營むものなれば其の蠢塊を成すを待ちて之れを捕へ他の巢箱に入るゝときは茲に新巢を營むものなり之れを捕ふる方は篋等を以て蠢塊の上を蔽ひ下より徐かに篋の中に追ひ込みて豫て用意の新巢箱の入口に之れを振り落すべし然るときは蜂は巢内に入るもわり巢箱の外面に攀

ち上るもわり然して蜂王は箱の外にあるも群中を上下して入口を求め巢内に入るや群蜂は相率ひて巢内に入る者なり又イタリヤ蜂の如きは性質柔良にして急燥ならされは其の蠢塊を園藝用スコープの如きものにてすくひ箆に移し又巢箱中にくひ入るゝを得べし
 自然の分封に委せすして人工を以て分封せしむる法あり其の法は種々あれども最も簡易にて安全なるは王臺のすてに蓋を合せしものを見て其の巢脾と他の巢脾他の巢脾には王臺なきものを良しとす二三枚を是に附屬しある働蜂と共に新しき巢箱に投して二個の蜂群となすなり此蜂群は共に舊位地に置く可らす若し一個を舊位地に置くときは多數の蜂は舊位地ある巢箱に集まりて他の巢箱の蜂数を減し衰弱ならしむるものなり凡そ分封は自然と人工とを問はず最も盛なる蜂群にても一群より一箇若しくは二個の分封に止め其の他は分封せ

しめざるを良しとす若し三四群を分封せしむる時は元巢及び新巢とも衰弱して共に盛んなる蜂群を得ると能はず又蜜を充分採取せんとするときは必ず一回以上の分封を爲さしめざるを良しとす分封を防ぐは巢の中を探し王臺の蓋したるものを毀つを良しとす然れども一回も爲さしめざるときは毎日王臺を毀つも毎日建設して到底毀ち盡そと能はざるものあり又已に分封したるものゝ直ちに其の蠢塊の中を捜し蜂王を見出して之れを殺すときは衆蜂は暫時にして元巢へ歸るものなり

養蜂場

養蜂場處は如何なる所を最も良しとするかは養蜂を試みんとするものゝ聞かんと欲する所なるべし而し我國の土地と氣候とは何

所も能く養蜂に適し五箱や十箱は如何なる處にも飼養するを得る者なり然れども數十箱乃至數百箱を飼養せんと欲せば必ず田舎の原野多くして澤山花卉の有る所を撰まざる可らず要するに果實蔬菜其他草木の花は即ち蜜の原料なれば花卉の多き地方は養蜂に最も適當の土地なり而して其位地は空氣の流通良しくして太陽の光線を受け東と南は開豁にして西北の風少なき地を宜しとす西北風は蜂の忌むものなれば其方向に高かさ生籬等を造くりて風を防ぐも可なり

養蜂場には果木蔬菜等を植へ附けて養蜂の外に收入を得且つ蜂に數多の蜜の原料を興ふるは養蜂經濟上に最も必要なりと雖ども常緑木は冬季寒陰に過ぎて良しからず又餘り蔭鬱なる巨大の樹は宜しからず矮生なる果木を位地良く植へ附け其の陰に巣箱を置くを良しとす余は郁李を以て最も適當の果木なりとす此樹は矮生にして宜しきの

みならず其の花は相密着して澤山開くを以て蜂に多くの蜜の原料を興ふへく其の果實は味良しく採取して販賣し得らるべし凡て其の植ゆる樹木を撰むには空氣の流通に妨げなくして夏月適當の樹陰を得て余り陰鬱に過ぎざるものを撰むべし又蔬菜を栽培しても可なりと雖ども巢門の所一二尺は空地となし蜂の出入に差支なき様にし又雑草の繁茂を防ぐべし又養蜂場の近傍は注意して蜘蛛の網等を取り除けて蜂の之れに罹らざる様注意すへし

巣箱と巣箱の距離は必ず二間以上隔つ可し然らされは蜂の誤りて他の巢に入り互に争闘し又蜂王交尾の爲め外に出で誤りて他の巢に入りて殺さるゝとあり巣箱を赤青黄等種々の色に塗り分け同しき色相接近せざる様配置し蜂をして能く己か巢を辨識せしむる様なすとすは尙餘程接近するも良しとす又花時巣箱を花多き地方に運搬して蜜

を採取するは大に收蜜の量を増すものなり
 巢箱は地上に配置するものなるも養蜂場には一の養蜂舎を要するものあり此の舎は大なるを要せずして其の窓等は硝子又は鉄網等にて張り蜂の入ると能はざる様に爲して蜜の採取等は凡て此舎内に於て爲すものとす然らざれば蜂の蜜の嗅ひを慕ひ來りて人をして其の煩に堪へざらしむるのみならず蜂は蜜を盗むに慣れて他巢の蜂巢に侵入して蜜を盗むに至るべし
 以上は完全なる養蜂場に付て述べしものなれば農家の副産として五箱乃至十箱を飼養するには宅地内の各所に巢箱を置き時々注意するのみにて可なりとす

巢箱

我邦從來蜜蜂の巢箱なるものは酒の明き樽或は蜜柑箱等を用ひ又は新に蜜蜂巢箱なる者を製するも唯に粗き板を打付けて粗末なる箱を製するに過ぎざりし泰西に於ても今は精巧なる便利なるものありと雖とも其初めは矢張り我が國の如く別に完全なる巢箱も非らざりしからん然れども彼の精密なる思想は永く養蜂上の利益を空しく過こさしめずして數百年以前より其の研究を爲し大に養蜂術の智識を發達し種々の便利ある巢箱を案出したり紀元千八百五十一年米國ラングストルス氏は最も完全なる巢箱を發明し現今最も廣く世に行はれたり今同巢箱の便益なる諸點を擧ぐれば

- 一、巢脾を切らずして之を取り出し又之を入れると自由なり
- 二、巢内を精細に検査し蜂王の存否貯蜜の多寡等を知るを得べし
- 三、巢脾を破らず蜂兒を損せずして蜜を採取し其の巢脾は再び蜂

- に興へて之に又蜜を貯へしむべし
- 四、貯蜜盛んなるときは幾回にても蜜を採取し蜂をして十分勞働せしむべし
- 五、巢内を掃除すると容易なり
- 六、害虫を防禦する事容易なり
- 六、蜜を多穫するを得べし
- 右は其の大略を記せしものにて其の他此箱の便益甚た大なり「ラングストルム」氏此箱を發明せられてより各國養蜂家此法に依りて巢箱を製せしも其の形状大小に至りては一定せず或は大なるを用ひ或は小なるを用ひ或は長形を用ひ或は方形を用ひ各其の便否を唱ふ今大小箱及框の得失を比較せば
- 一、巢箱の大なるは蜂群の盛なるに従ふて飽くまで其の巢を擴大

- ならしむべし (大箱便)
- 二、巢箱の小なるは繼箱内へ王の上りて産卵するとあり尤も隔王板(亜鉛板)に幅一分六厘廣サ七八分の穴を一面に穿てるものにして王の越ゆる能はざるものなり(を巢箱と繼箱との間に用ゆるときは此の憂なし (大箱便))
- 三、巢箱小あるときは王産卵の場所と貯蜜の場所少なし (大箱便)
- 四、巢箱の小なるは巢内を掃除し及之を運搬するに便なり (小箱便)
- 五、巢箱大にして若し蜂充滿せざれば冬季寒を感ずると多し尤も隔離板(板)を以て巢内を分隔し之れを大小ならしむる板を云ふを用ふるときは此憂少なし (小箱便)
- 六、巢箱小なるときは巢箱内温度を保つと良しきを以て蜂強盛な

るべし (小箱便)

七、巢箱大あるときは繼箱を重ねるも蜂の之に工事を始むると遅緩にして巢蜜を取るに容易からず (小箱便)

八、框の大なるは採蜜の場合に養蜂者の手間を省く (大框便)

九、框の大あるは女王産卵するに一巢脾より他巢脾に移ると少く従て時間を節す (大框便)

十、框の小なるは之れを取り扱ふに便利にして巢脾を損するとなし框の大なるは蜜充滿の時は往々巢脾を損するとあり (小框便)

十一、蜂は球形の巢を營むを好む框小にして蜂群小なる時は即ち扁平に巢を營むか或は框の一方に巢を營み框を充滿せしめす框小あるときは直ちに框を充滿し蜂の爲め及び養蜂者の都合

良し (小框便)

十二、巢箱の小なるは分封を早く多からしめ巢箱の大なるは分封を過緩ならしむ (時機に依り兩便)

巢箱及框の大に失し又小に失するは共に此箱の利益を少なくするものあり

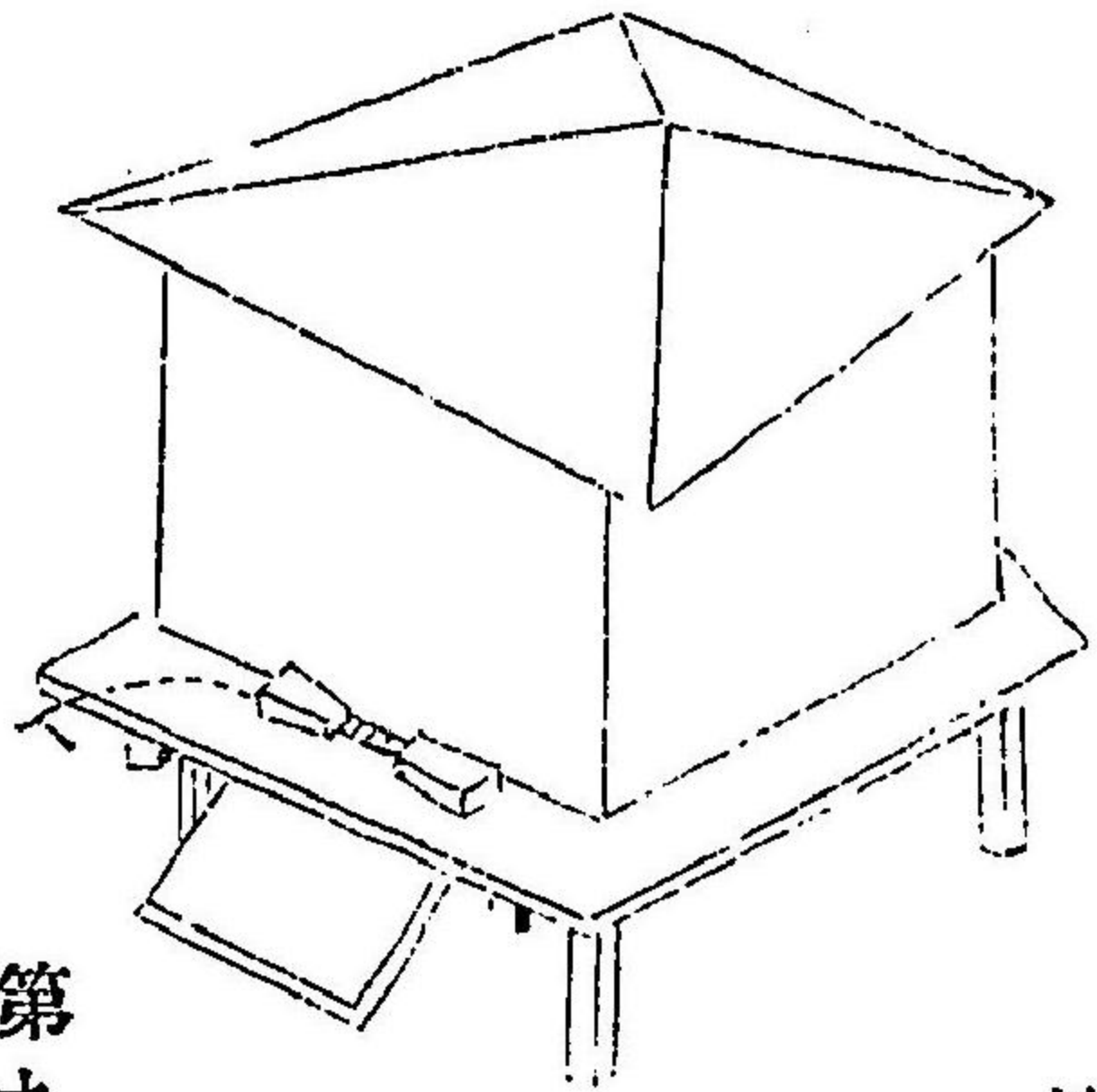
余か用ふる巢箱は左の如し

第七圖は巢箱全体を装置したるものなりへは蜂の入口を廣狹する爲めの三角の木片なり即ち冬季は狭く夏季は廣くするなり

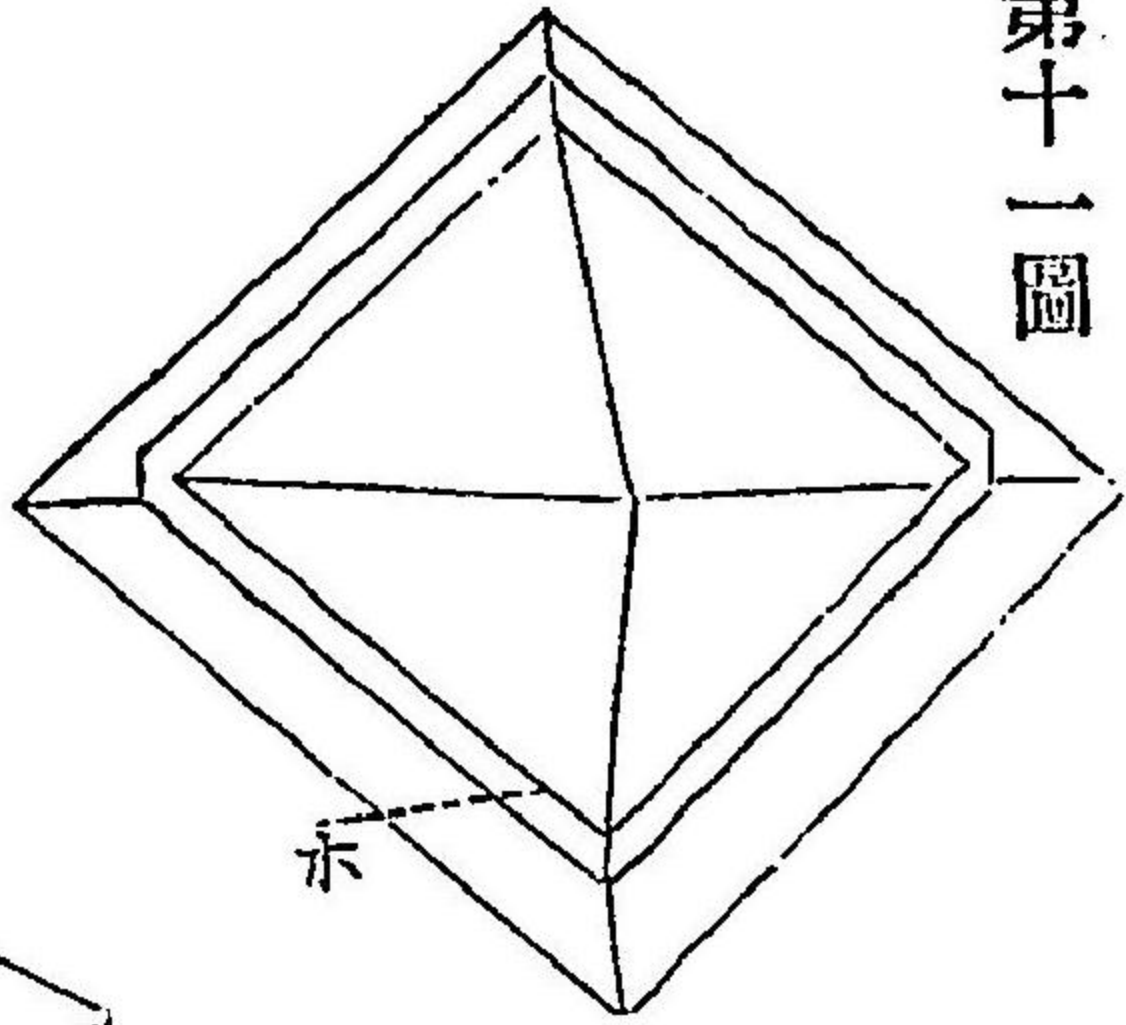
第八圖は巢框にして巢箱の中に入れ巢を造營せしむるものなり高サ八寸六分長サ一尺一寸四分上棧は兩端挺出して長さ一尺二寸八分に

して下邊を「イ」の如く三角に削りて蜂の工事を始むるに便す此框は幅八分にして三分板を以て造る上棧は一寸の厚板を以て削りて造る此

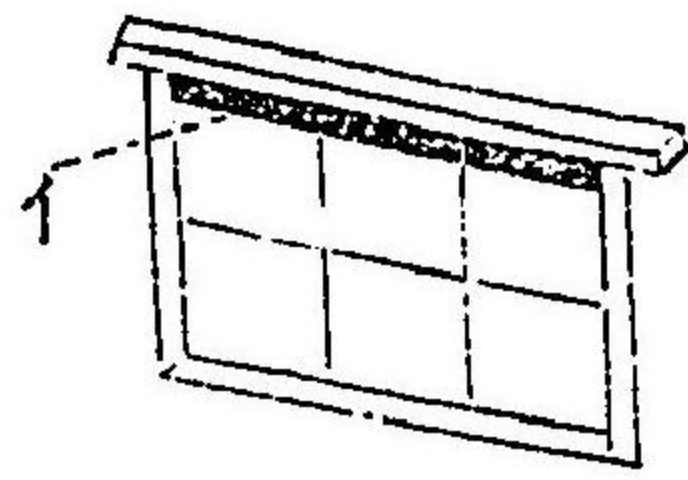
第七圖



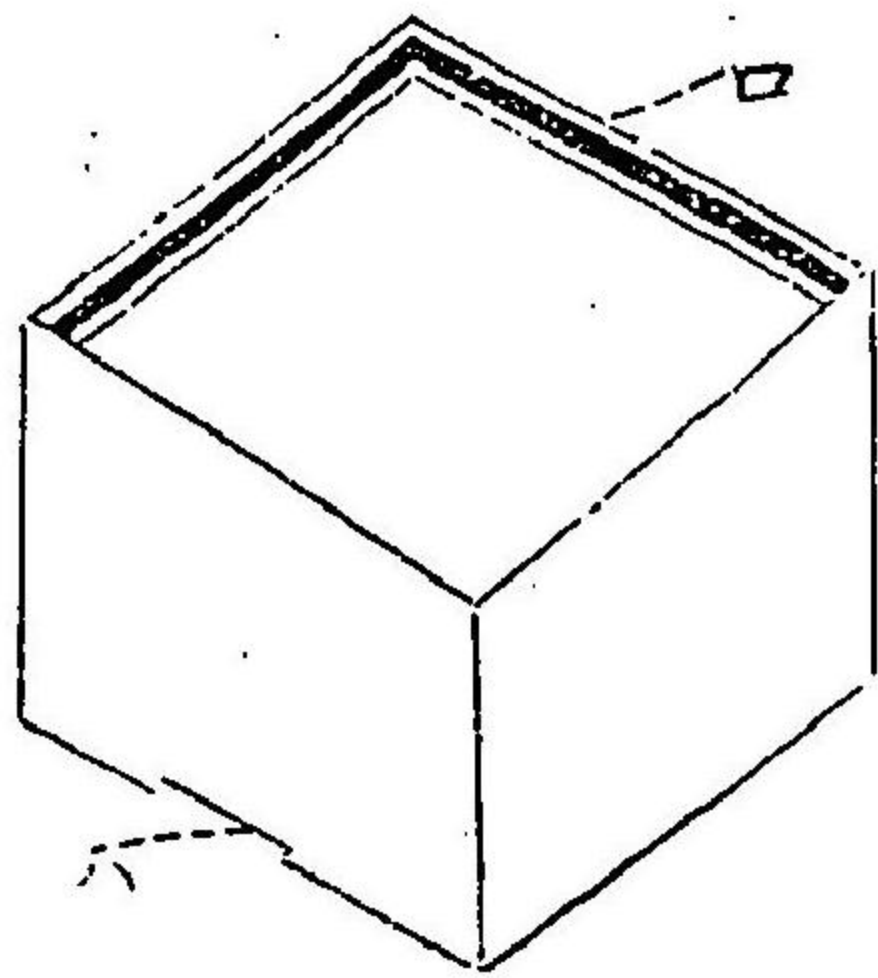
第十一圖



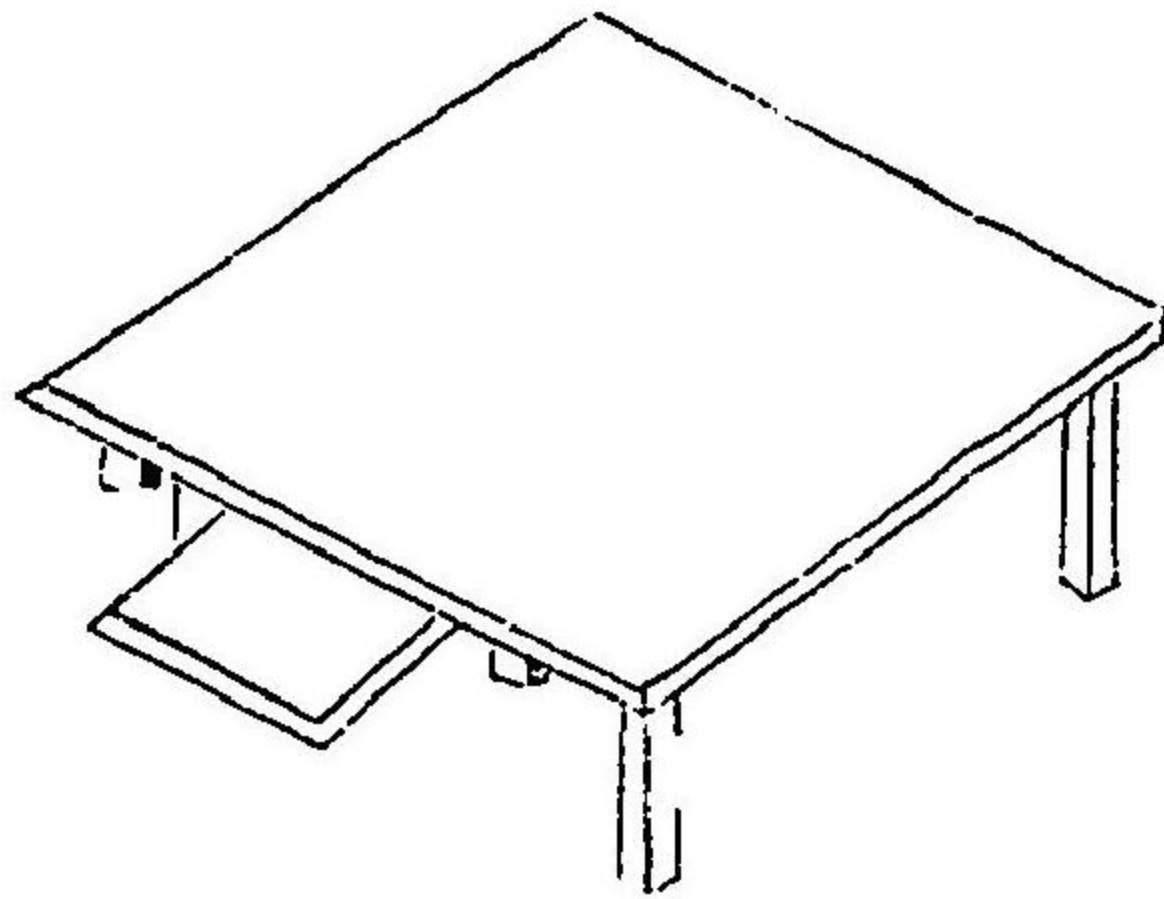
第八圖



第九圖



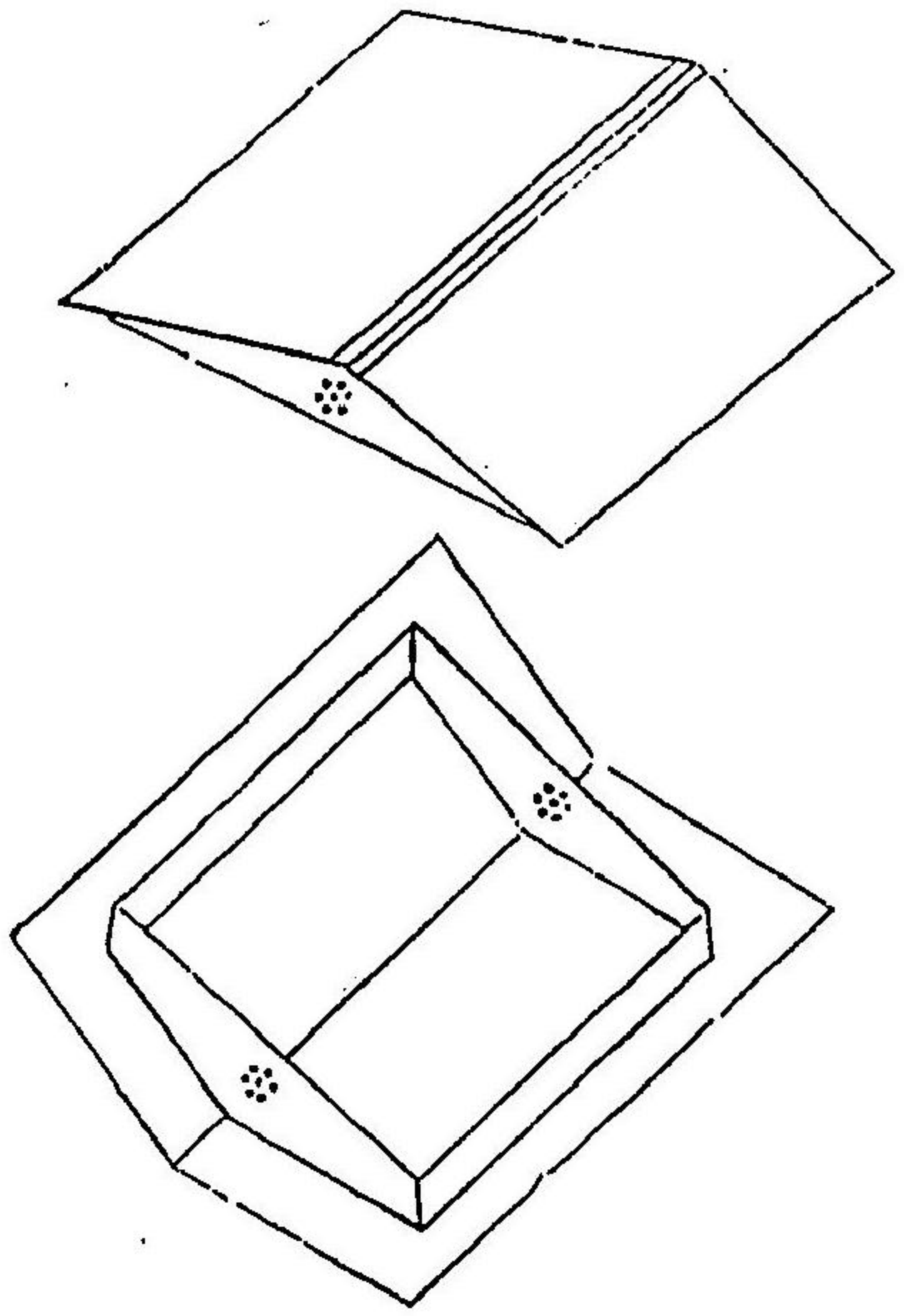
第十圖



框は一箱に拾
 枚を入るゝも
 のなり
 第九圖は胴に
 して内圍にて
 廣さ一尺二寸
 四方高さ九寸
 上邊を「ロ」の如
 く廣さ四分深
 さ三分切り下
 けて巢框を掛
 くる様にす又

「ハ」の如く前面の
 下邊を廣さ二寸四分
 高さ四分位切り込
 んで蜂の出
 入口とす胴は八分
 板を以て造る

第十二圖



幅八分の椽を四方に打ちつけ胴に嵌まる様にす又此の笠形蓋の代

りに第十二圖の如く二方屋根の蓋を用ゆるも製作上手数を省きて益あり
 右の外隔離板あるものを作り置くを宜しとす隔離板は五分板にして
 上邊を巢框の如く兩端へ挺出し胴へ嵌まる様に切り蜂群の未だ小な
 るときは巢框を四五枚入れ其の後に此板を嵌め箱内を分割して小な
 らしむるものなり
 巢箱を製する木材は臭氣少くして外氣に感じ易からざるものを撰む
 可し即ち杉材等を良しとす
 扱巢箱を裝置するには先づ地上に四個の石又は煉瓦を据へ其上に臺
 を置き胴を載せ中に巢框を挿入して上に藁薦(冬季は更に新聞紙又は
 フランネル等の如きものを被ふて温暖ならしむ)等を被ひ蓋を被ふな
 り

夫れ一度一定の框及巢箱を用ひは永く之れを變せざるを良しとす之
 をするときは種々の不便あり又大小彼れ是れ用ふるときは框を彼れ
 是れ流用せると能はされは此巢箱の効用を減少するものなり

管理法

蜂を取扱ふには蜂の性質を知るを肝要とす然らされは蜂を多く怒らし
 しめ屢々蜂に整さゝることあり少しく熟練するに至れば蜂を怒らし
 めずして自由に之を取扱ふに至る凡て蜂を取り扱ふに當り決して輕
 卒の舉動を爲す可らず蜂怒りて來るも決して北ぐる可らず掃ふ可ら
 ず蜂來りて多く手又は顔に止まるも不愉快の念を起す可らず蜂の自
 然に任するときには蜂は整すとなくして去るものなり即ち蜂をして人
 の躰を以て木か石かの如く思はしめ己れを害するものに非ずとの觀

念を抱かしむるなり凡て蜂は花蜜を採取するに忙はしく労働すると
 きは怒ると少く之れに反するときには怒ると多し即ち朝及夕は怒り易
 く日中は溫柔なり又蜜を充分啣むときは至て溫柔なりとす故に分封
 の節は蜂皆を蜜を十分啣み居るを以て多くの蜂亂飛する間に立つも
 整さるゝ事は至て稀なりとぞ
 巢框を取り出し巢の中を検査するときには最も注意して蜂を壓死せし
 むるとなき様すべし亦藁布を蔽ふ等にも蜂を壓死するとなき様注意
 すべし

春花盛んに開き蜂の巢牌を造營すること多きとき及び分封して新た
 に巢牌を造營するに當り一框に二枚の巢牌を造り又一枚の巢牌を數
 框を通して造るとあれば注意して時々巢牌を検査して不正の巢牌を
 矯正す可し然らざれば遂には框を一枚つゞ引き出すと能はざるに至

るべし又巢礎とて薄き臘板へ巢形を印したるものを框に付けて蜂に
 與ふるときは不正の巢を造ると少なし然し伊太利亞蜂は直ちに巢礎
 に巢を始むると雖とも日本蜂は稍や巢礎を嫌ふの風あるか如し
 框を取り出し蜂を去らんとせば框を振り蜂を巢内に落とし残りの蜂を
 羽箒を以て掃ひ去る可し又日本蜂は框を振り或は叩きて之を巢内の
 框に接するときには蜂の多くは北げて巢内に入るものなり巢箱は時々
 其の胴を除け其の臺を掃除すべし殊に春時は時々掃除せされは最も
 恐る可きトナ虫の發生を多からしむるものなり
 春花盛んに開きて蜂は専ら労働し群蜂大に繁殖すれば分封を爲すに
 至る此時は能く注意して適宜之を管理し又蜜の充満するときには之を
 採取す可し春去り夏來り野に草花なく蜂は労働を停止し貯蜜に依り
 て生活するに當り若し蜜の欠亡を知らば食物を製して之を飼養すべ

し此時怠るときは秋期運動活潑ならずして遂に衰弱するものなり秋季に至り花再び盛んに開くときは蜂は又活氣を呈し盛んに労働す此時又蜜を採取すべし然れども注意して冬期の食料を貯ふる充分なる時日あるときに於て探蜜を止むべし漸く寒氣に向ひ蜂は巢内に蟄居せんとする前蜜の少くして冬期を過すに十分ならずと思ふときは之に食料を與ふへし凡て冬期は成る丈け巢脾を密接し巢門を狭め蓋の下に新聞紙或はフランチル等のものを被ひ十分温氣を保たしむべし又寒地に在りては藁蔭等を以て箱を巻く可へし又雨雪に曝されざる様屋根の下に移し置くは最も可なり

食物を與へて蜂を飼養するは早春花の未だ開かざる以前夏季花の少くして蜂の食料の欠乏したるとき晩秋蜂の冬期を過す丈けの蜜に不足を認めたるるとき冬期蜜少くして蜂の餓死せんとしたるときとす其

食物は蜂蜜を稍稀薄したるものを以て最も良しとす又氷砂糖半斤に水二合を加へ文火にて溶解したるものに酒石酸極少許と蜂蜜少量を加へたるものも可なり總て晩秋及冬期飼養するものは夏季飼養するものより濃厚なるを宜しとす其の蜂に食物を與ふはコップに入れ皿を以て被ひ急に之れを倒にすべし而して揚枝等を皿とコップの間に入る、ときは蜜は蜂の吸ふに従ふて流れ出るものなり而して二箱以上の蜂群れるときは更に其のコップを他の小さき箱等にて被ひ他巢の蜂の入る能はさる様にして與ふるか或は箱内の巢脾の後部等に入れて之を飼養すべし

蜂群の女王を失ひたるときは大に悲哀の狀を呈し或は忙わしく巢門を出入し或は飛揚し王の在所を探る爲め所々を探索して大に擾亂すると二三日にして漸く鎮まる而して働蜂卵あるときは茲に王臺を建

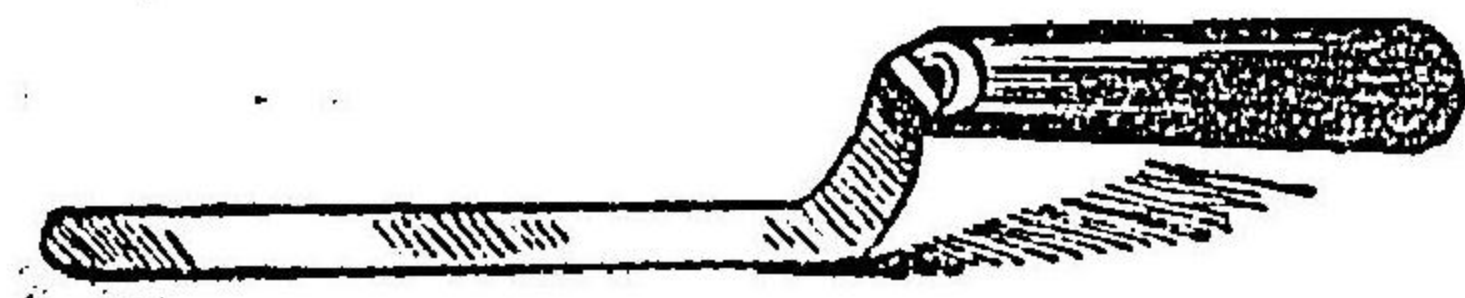
設して働蜂卵を王に變化せしめ茲に新に王を生出すとあり女王なき群は之を他群に合同するか或は之に女王を興ふるか或は王臺の已に蓋したるものを興ふ可し若し又止むを得ざるときは他の巢より働蜂卵ある巢脾を切り取り之を興ふるときは働蜂卵の所に王臺を設けて王を生するとありとす

蜂蜜採取及製蠟法

從來我國蜂蜜を採取する法は一年一回秋季蜂の全群を殺して巢脾を悉皆取り去るか或は全巢脾の三分の一位を取りて餘を以て冬季の食料に供す而して其取りたる巢脾は之を太陽に曝して蜜を流出せしめて採取するを垂蜜と云ひ最も上等なりとす其の餘は巢脾のまゝ布にて搾り取るなれば蜜汚穢にして夏期を過くるときは酸敗するものな

り改良箱にて飼養するものは一年四五回收蜜するを得即ち春二三次回秋一二回とす春蜜は最も良好にして殆んど透明なり凡そ収蜜を多くして利益を得るには成る可く分封をなさしめずして蜂群を強盛に爲すにありとす分封を防遏するには巢内を験し王臺を取り去るにありと雖も春季一回の分封も爲さしめずして日々王臺を取り去ると雖も日々三四箇の、の王臺を設けて到底取り盡すと能はされは空しく蜂を勞せしめ却て益なきものとす又春季分封前収蜜するは分封を遅延せしむべしと雖も到底分封を防遏すると能はさるのみならず多量の収蜜を得るとも能はされは成る可く第一回の分封を爲さしめて而して収蜜に着手するを可とす而して春季一回蜜を採取して十日乃至二週間位を経るときは又々蜜を充滿すべし而し秋季は収蜜を一回乃至二回に止めて冬期の食料を貯蓄する時日を興ふべし

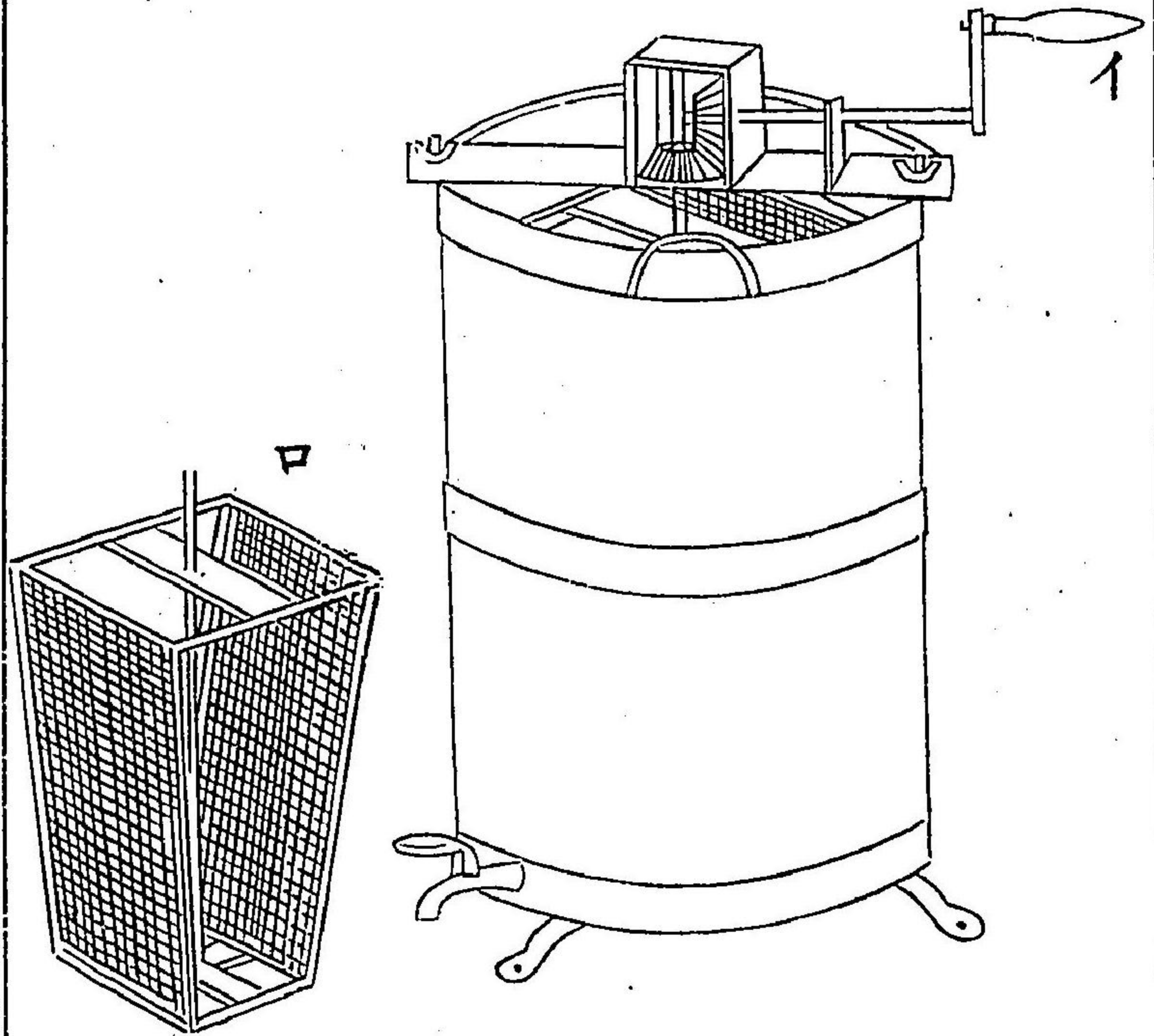
採蜜の法は日中巢箱を開きて巢框を取り出し蜂を掃ひ去り第十三圖
 或は第十四圖の如き蜜刀を以て一面の蜜蓋を切り去り之を分離器中
 第十三圖
 の框の鐵網ある方へ巢の蓋
 を切りたる方を面せしめて



入る第十五圖は分離器にして「ロ」は器中の框なり此分離器
 には同時に二枚の巢框を入れるを得るものなり而して「イ」
 の柄を回轉して蜜を振り出して巢脾を引き出し又一面の
 蓋を切り去りて框に入れ又蜜を振り出すなり而して蜜を
 採取し終りたる巢框は元の如く巢箱に入れ置くときは巢
 中の蜂兒は恙なく發生し蜂は蜜の少きを以て頻りに勞働
 し數日にして再び蜜を充滿するに至るものあり蜜の採取
 は蜂の蜜房へ蓋したるを度とそ未だ蓋せざる以前に採取

圖四十第

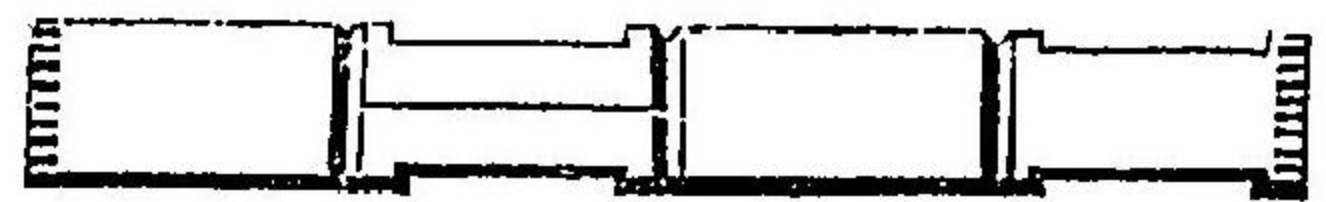
圖五十第



したるものは蜜稀薄
 にして水分を蒸發せ
 ざる可らざるなり又
 巢内に蜜充滿するも
 蜜を採取せざる時
 は蜂は怠りて蜜を集
 めされは適宜蜜を取
 りて蜂をして十分勞
 働せしむ可し
 又巢蜜なるものあり
 巢蜜とは一斤入二斤
 入等の小箱に巢を造

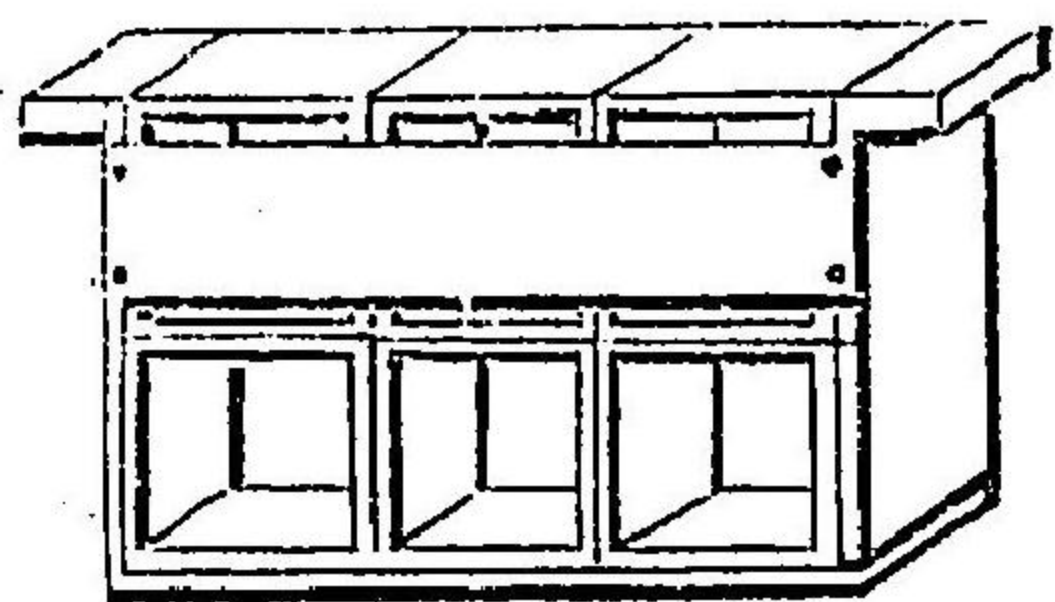
らしめ之に蜜を貯へしめ其の儘販賣するものにして其の品質優等に
 して價亦貴し故に歐米の養蜂家は専ら力を巢蜜の採取に盡せり我國
 未だ巢蜜の需用少きも早晚之か需用増加するに至るべし
 巢蜜に用ゆる箱は幅一寸六分にして三寸八分四方なり厚さ
 一分の薄き板を以て造る之を一斤入とす其の材は柳の如き
 柔くして粘力ある者にして一枚の板を第十六圖の如く切り
 折りて四角となる様にすれば販賣上及食用上大に良しきも
 のなり此小箱は第十七圖の如く大框に入れ以て繼箱に入る
 均しく以て上下六箇の巢蜜箱を並列するに適するものにし
 て其の一面には極薄き板か又は亞鉛板の幅三寸五六分位のものを適
 宜の間を措きて打ち付くるなり第十七圖は其の一枚を取り去りし所

圖六十第

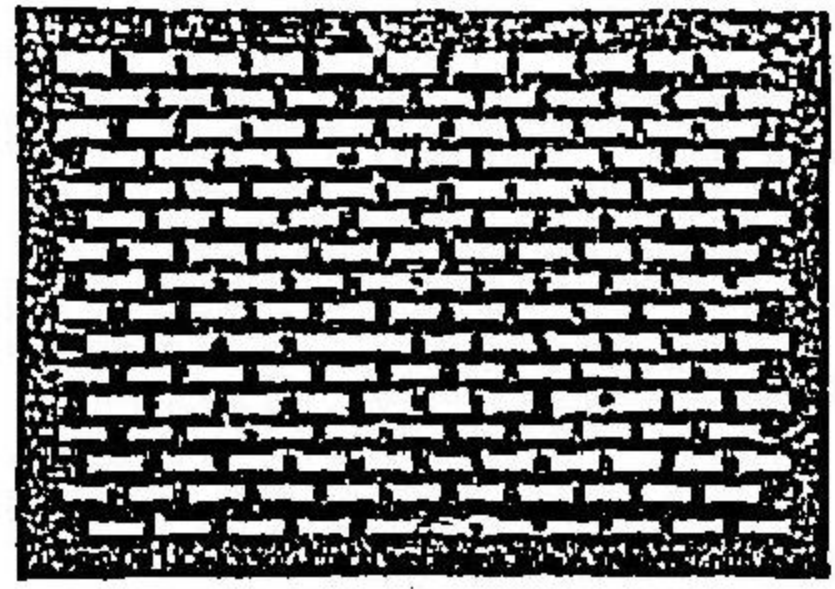


を示す繼箱は便利上普通の巢箱を用ふ又た此大框の丈けを半分にし
 て三箇の巢蜜箱を並列する様にし繼箱の高さも普
 通巢箱の半丈けあるを用ふるも便なりとす扱て春
 季巢礎(巢)の形を印したる蠟板を裝置したる巢蜜箱
 を法の如く大框に裝置し繼箱に入れ巢箱の上に載
 せ以て之に巢を造營せしむるものなり此繼箱内に
 は王をして産卵せしめす蜜のみを貯ふ若し王の昇
 進の憂あるときは繼箱と巢箱との間に第十八圖の
 如き隔王板を入れる隔王板とは廣さ巢箱と同じき亞鉛板にして幅一分
 六厘長さ七八分の小孔を一面に穿てるものにして王の昇進を防ぐも
 のなり扱て此巢蜜は巢蜜箱に巢を充たさしめされば販賣するに甚だ
 体裁良しからざるものなるに蜂は上部のみ造營して下部に及ぼさ

圖七十第



圖八十第



るときは巢蜜箱を上下回轉して以て巢を充滿せしむる様にすべし此
 蜜は至て高尙優美にして其の小箱のまゝ販賣するも
 のにして其の價は普通分離蜜分離器にて採取したる
 ものに倍するものなり此繼箱は蜜を澤山採集する時
 節に用ふるものにして冬季は之を取り去るものと
 日本蜂は大群を爲す能はずして繼箱内に巢を造るを
 嫌ふの風ありて巢蜜を採るとは困難なるも伊太利亞蜂は直ちに巢蜜
 を造るものなり
 巢の破壊したるもの及四五年を経たる古巢は之を破壊して蜜蠟を製
 するを得べし其の法は巢脾を破はして麻袋に入れ鍋に入れ水を澤山
 入れ沸煮するときは蠟は水面に浮び出るなり而して十分蠟の溶解し
 たるを俟ちて袋を急に取り出し其の儘鍋を冷却するときは蠟は水面

に黄色を呈して凝結するものなり而して其の凝結したる蠟を取りて
 裏面を見れば汚物多きを以て之を削り去り又鍋に水少許を入れ蠟を
 入れて溶解せしめて再び冷却し汚物を去る此く二三回にして善良な
 る蜜蠟を得べし又巢脾を其の儘鍋に入れ水を加へて溶解せしめ之を
 麻袋にて濾し冷却せしめは蠟は水上に凝結するを以て之を前の如く
 數回汚物を取り去るなり

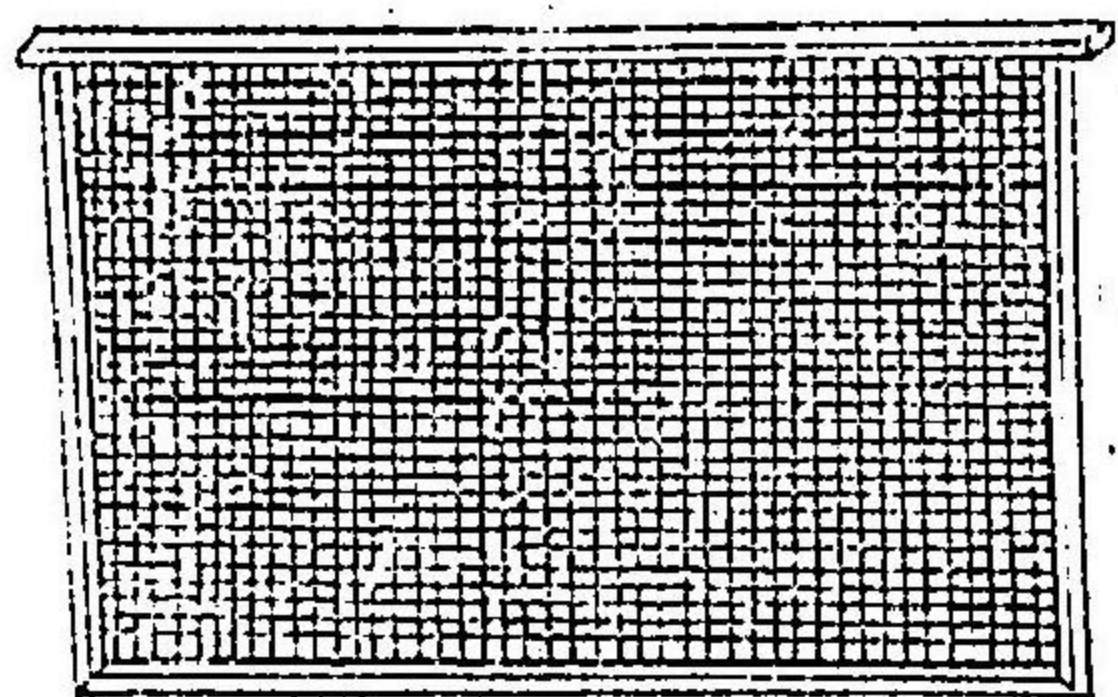
蜂群合同法

蜂群の弱小なるは大に不利益なる者なれば養蜂家は力めて蜂群をし
 て盛ならしむ可し弱小なる蜂及女王なき群は之を他の群に合同すべ
 し其の法は先づ甲箱を乙箱に一致せしめんと欲せば夕景蜂王のある
 ものは其の王を除き去り巢脾を出して蜂を掃ひ其巢脾を乙箱に移し

置き成る可く巢箱には蜂群のみを入れ置き巢門を閉ぢ日の全く暮るゝを待ちて蓋を去り之に乙箱を載せ手を以て甲箱を叩くへし然るときは蜂は大底上進して一致すへし蜂全く上進するときには甲箱を去り乙箱を元の位置に直すへし此法を行ふには日中より注意して蜂の舉動を察すべし若し盜蜂熊蜂等の來りし時巢門の所に蜂の出て、敵を防かんと用心するときに此法を行ふときは忽ち蜂の知るところとなりて夜間争闘を始め大に困難を來すべし故に蜂の平安無事の時に於て之を行ふへし又日の全く暮れて後成るべく早く之を行ふを要す凡そ蜂は其の臭氣に因りて我巢の蜂と否とを辨識するものなれば翌朝迄に臭氣を同一ならしむると肝要なりとす

蜂を合同するには前法を以て其の目的を達し得べしと雖ども余は尙完全なる合同法を發明せんと種々の試験を爲し遂に一の合同箱を製

第十圖



したり其の箱は普通巢箱の前後に入口を設うけたるものと合同板とより成る合同板とは其の高さは箱の胴と同じくし其の幅は箱の内幅と同じく其の形巢框の如くにして第十九圖の如く其の面に金網を張りたるものなり扱て蜂を合同せんにには合同箱を普通巢箱の如く据へ付け中央に合同板を入れ合同せんとする二箇の蜂群を合同板を隔て、共に其の中に入れ相來往すると能はさらしめ蓋を爲し四五日間を経て合同板を取り去るべし然るときは相争闘をるとなくして能く合同するものなり蜂を合同箱に移すに當り一蜂も相混入をると奇き様能く注意し一群を移したれば其方へ假に蓋を爲し而して後に他の群を移すべし又兩方の蜂群に共に蜂王あるときは合同板を取り

去るとき必ず一方の蜂王を取り去るべし此の合同箱にして捨く養蜂家に用ひらるゝに至れば其の便益少なからざるを自信するものなり

種蜂

養蜂を始めんとするには先づ種蜂を買入れざる可からず種蜂を買入るゝ時節は何時にても可なりと雖ども先づ早春を以て最も良しとす此時節は蜂の労働を始むる時期なれば是より益々蜂の活潑に向ふの時なればなり種蜂を買入るゝには蜂の尤も盛なるものを求めざる可らず之れを知るには巣箱を開きて内部を檢する時は大に良しと雖ども從來の巣箱にては能く其の内部を檢すると能はせ又冬期は改良箱と雖ども蓋を開くときは蜂の寒氣に逢ふて良しからざる者なり斯る場合には蜂の外出するの多寡を檢し又た巣箱を叩きて其の蜂の

ウツニシヌウツと云ふ音の大小を以て蜂盛んあると否とを知るべし四五月頃分封したる蜂群を購入するには第一分封なれば良しと雖ども第二分封以下は蜂王の未だ交尾せざるものなれば十日以上其の所に置き王の交尾するを待ちて之を運ふべし然らざれば王の交尾する能はずして遂に全群廢滅に歸するとあり近所より種蜂を購入するには其の蜂巢を一時七八丁遠方に運び置き五六日を経て再び之を自家へ運ふべし然かせすして一二丁隔たりたる所より直に之を移すときは蜂は元と巢のありし場所に戻りて巢を求め遂に已か巢の在所を忘れて歸るとなく遂に死するものありて多数の蜂を損すとあるべし山間の地にては或は自然に樹のウロ等に巢を營み居るものあれば之を捕らへ來りて飼養するも可なり其の巢を取るは成る可く其巢脾を

切り取り之を框に嵌め細き棒等にて之を支へ落ちさる様に爲し而して蜂群を移すを良しとす若し止むを得されは蜂群のみを移すも可なり其の群中に蜂王なきときは其の勞は無益になるものなり山野自然の蜂を取りて飼養するものは是まで人に飼養せられたるものより怒り易し然れども少しく月日を経るときは溫柔になるものなり初めて養蜂を爲さんとするものゝ種蜂を購入するには成る可く二箇の種蜂を購入すべし一箇を購入して若し其の結果良しからざるときは養蜂の熱心を薄くするものなり又成る可く改良箱にて飼養せる蜂を購入すべし改良箱にて飼養したるものは常に蓋を開き框を引き出さるゝに馴れ居るを以て大に溫柔なるものなり初めて蜂を飼養するものにして若し怒り易き蜂群にて數回螫さるゝときは是亦大に養蜂の熱心を殺ぐものなればなり

日本の蜂種は種々あるか如く言ふものあるも皆同一種類なりとす然れども氣候風土に依りて多少其の性質を變したるものなきに非らざるなり其の性質溫柔にして能く勞働すると雖も物に驚くの性あり又不時に飛去るの憂ひ多しとす殊に夏秋の間に於て然りとす而して大群を爲し難くして春季分封したる強盛なる蜂群より秋季に至り又分封を爲すとありとす

伊太利亞蜂は世界第一の蜂種として歐米養蜂家の信用を得たる蜂種にして体格日本蜂より大に性質活潑にして能く勞働し蜜を採收すると甚だ多く其の巢脾を引き出すも能く靜肅にして物に驚かざるの性あり又其巢脾堅牢にして運搬及取扱上甚だ便なり伊太利亞蜂を日本蜂と同所に飼養するとき花時蜜の原料多きときは共に勞働して異狀なきも花漸く謝するに至れば養蜂者十分注意せよ

れは伊太利亞蜂は遠慮なく日本蜂の巢箱に侵入して蜜を横奪するに至り日本蜂は到底伊太利亞蜂を防ぎ得ざるなり故に兩種を有する人は數町距たる所に置くを安全とす

蜂巢運搬法

種蜂を遠方より取り寄せ或は蜂巢を花ある里に運搬して蜜を多収する等養蜂上蜂巢の運搬は甚だ必要なりと然るに従來の巢箱即ち酒の明樽或は蜜柑箱等の如きものに巢を營ましめしものは至て運搬に不便にして途中巢脾の墜落して蜂群を壓死せしむるとあり故に之を運搬するには靜に取扱ふは勿論瀛車瀛船の外必ずしも人夫に擔はしめざる可らず然れども尙巢脾を損する事あり改良箱にて飼養せるものは巢脾は一枚づゝ框に固定しあるを以て靜に運搬するときは損す

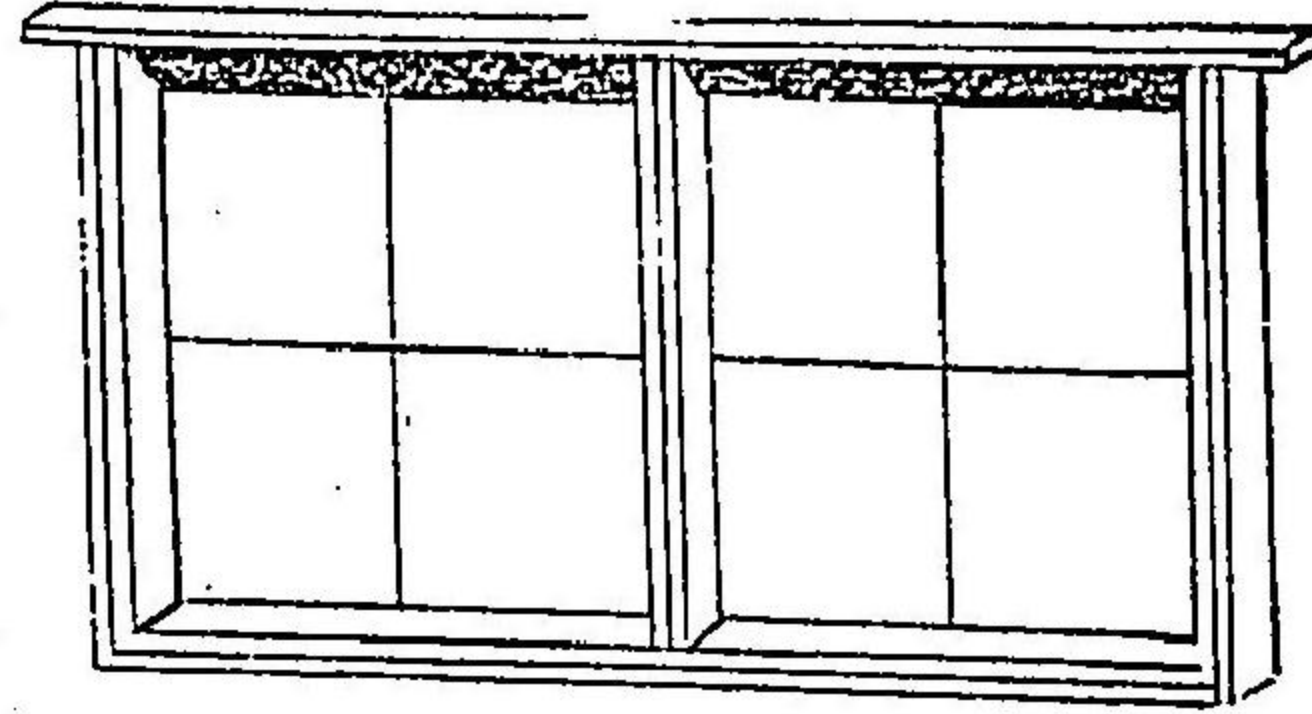
るの憂少きしとす之を運搬するには先づ框を胴に螺旋にて固定し而して胴及蓋をも釘にて打ち付け入口は錐穴を一面に穿ちたる板を打ち付けて後運搬すべし運搬の好時期は早春を以て第一とし秋期之れに次ぎ冬夏は運搬に適せずとあす早春は漸く温暖に向ふを以て蜂の勢次第に盛んに且巢脾堅固にして蜜充滿せざるを以て巢輕く從て損すること至て少しとす秋期は蜂蟄居の狀を爲さんとし氣候寒冷に向ふを以て巢脾漸く堅固となるものされは此二期を以て運搬の時節とす冬季は蜂蟄居して傷み易く夏季は巢脾損し易く又蜂蒸さるゝことあり

余は蜂の運搬には種々苦心し數々失敗を爲したる後始めて小包郵便にて運搬するを試み好く結果を得たり小包郵便にて蜂を運搬するは早春に非らされは失敗すること多し左に其の運搬箱の構造を記す

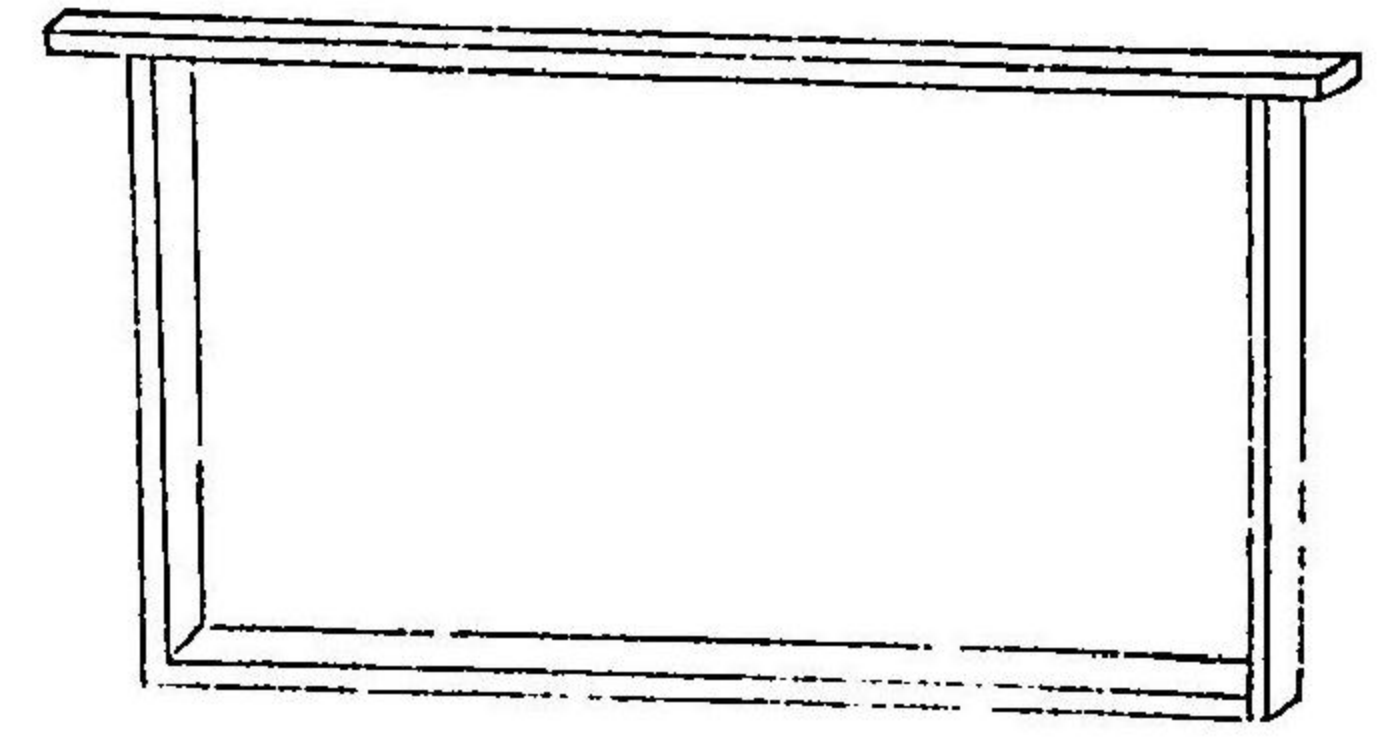
べし

第廿圖は運搬用巢框にして普通巢框の如く巢箱に入るものなり第廿一圖は其巢框の外圍なり高さ八寸六分廣さ壹尺一寸四分幅八分上棧は兩端七分づゝ挺出す此框は三分板にて造る第廿二圖は其の内框なり高さ八寸廣五寸四分幅八分三分板にて造る上棧はホの如く下邊を三角に削りなして中に十字形に鐵線を張る第廿三圖は運搬箱の蓋なり幅六寸六分廣九寸七分にて三分板にて造る第廿四圖は運搬箱の胴にして高八寸三分幅及廣は第廿三圖に同じ三分板にて造り所々に錐穴を穿つ又トの如く前面下邊を巢箱の入口の様切り込みて蜂の入口と爲しチの蓋を螺旋にて附す第廿五圖は高さ六寸七分の

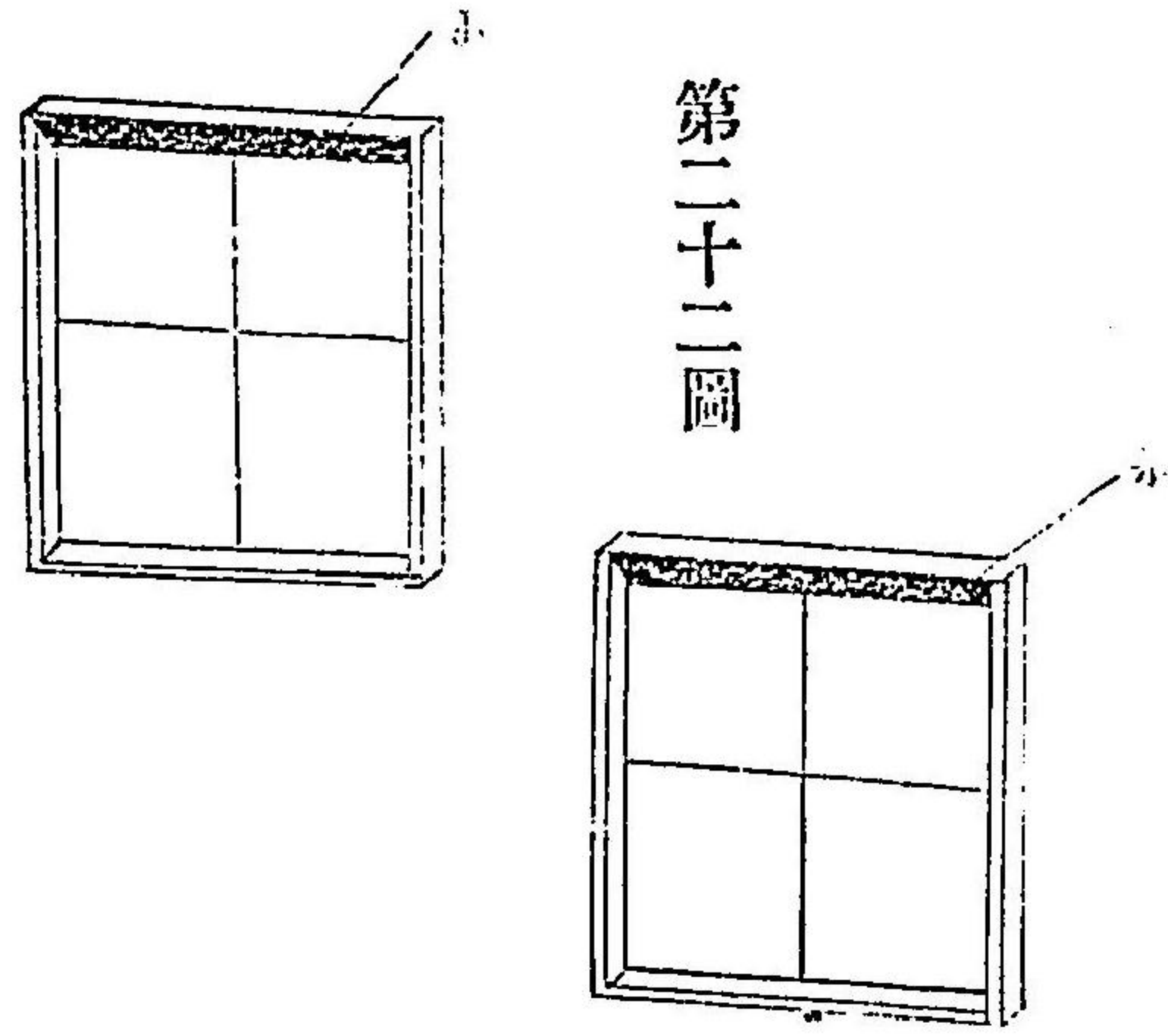
圖十二第



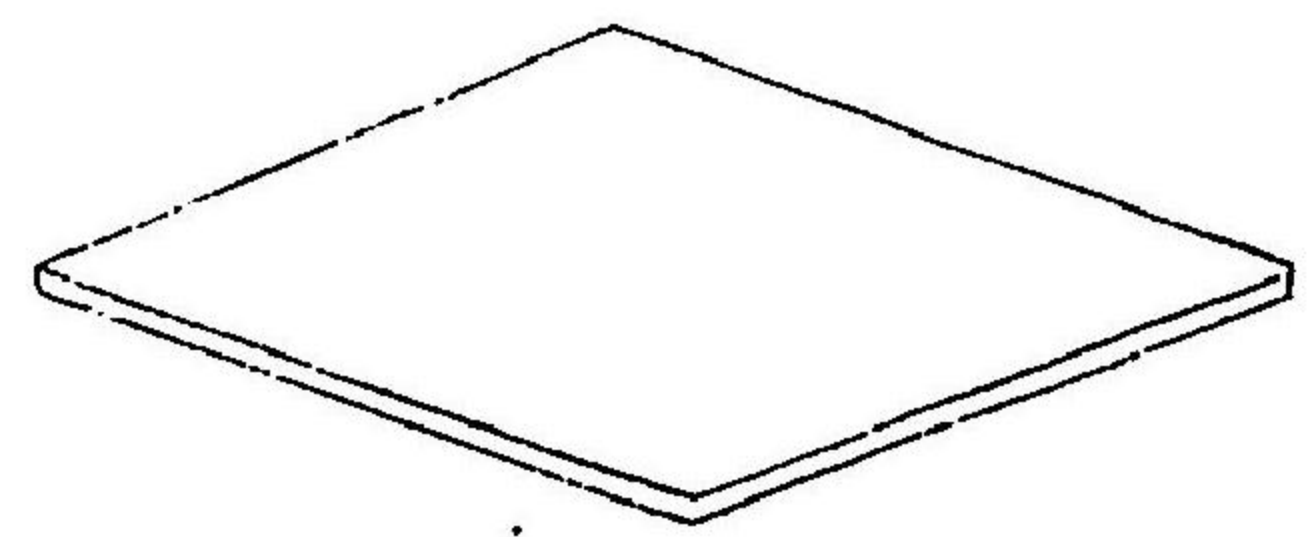
圖一十二第



第二十二圖

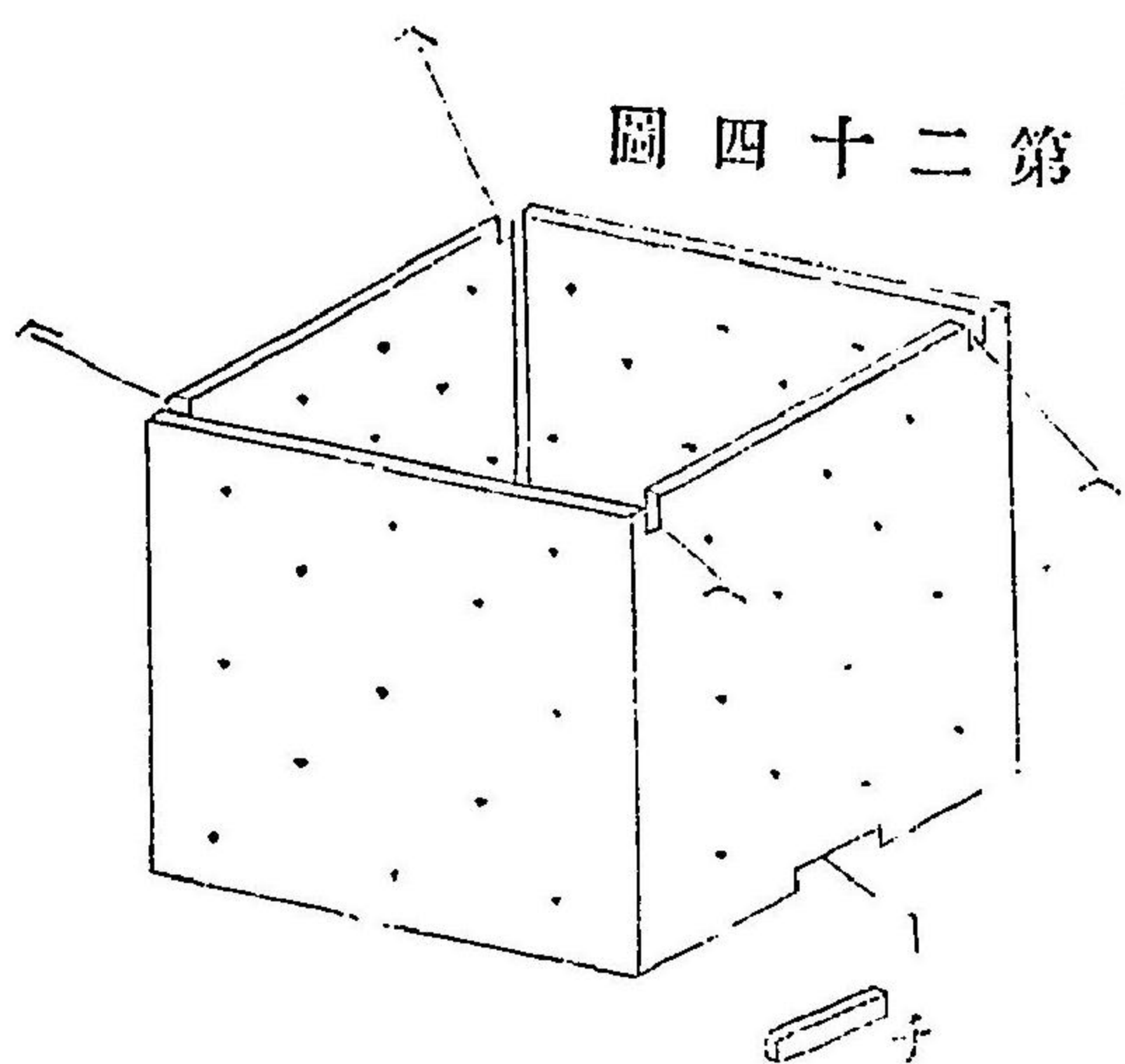


圖三十二第

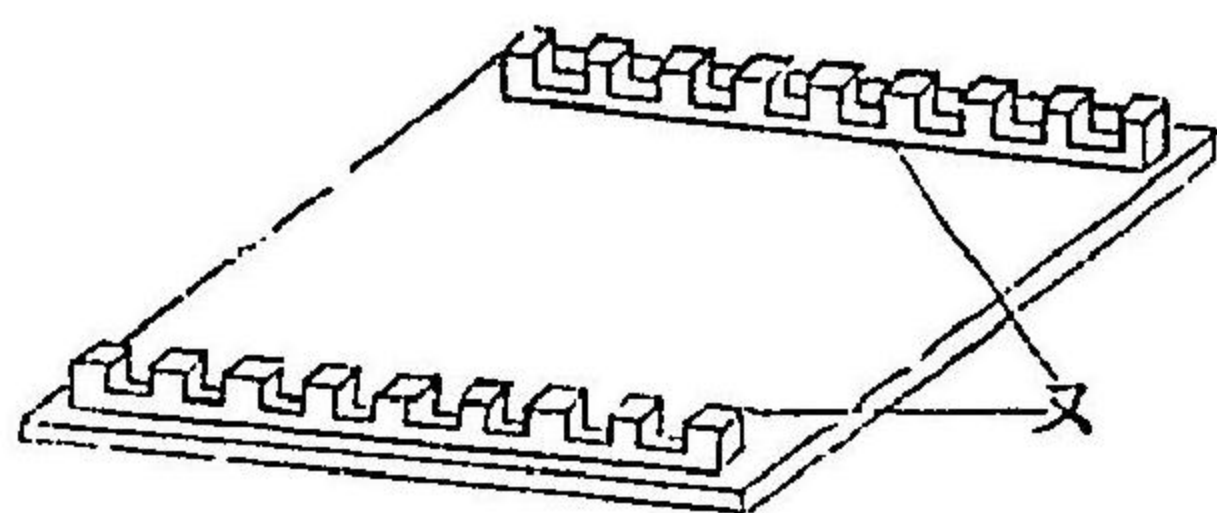


木片にして「リ」の如く切り込みて運搬箱の「へ」へ嵌め框を固定するに用ふ第廿六圖は運搬箱の底にして幅廣厚とも第廿三圖に同じく「ヌ」の如く切り込みたる木片を打ち付け運搬箱の胴に嵌め其の切り込みし處

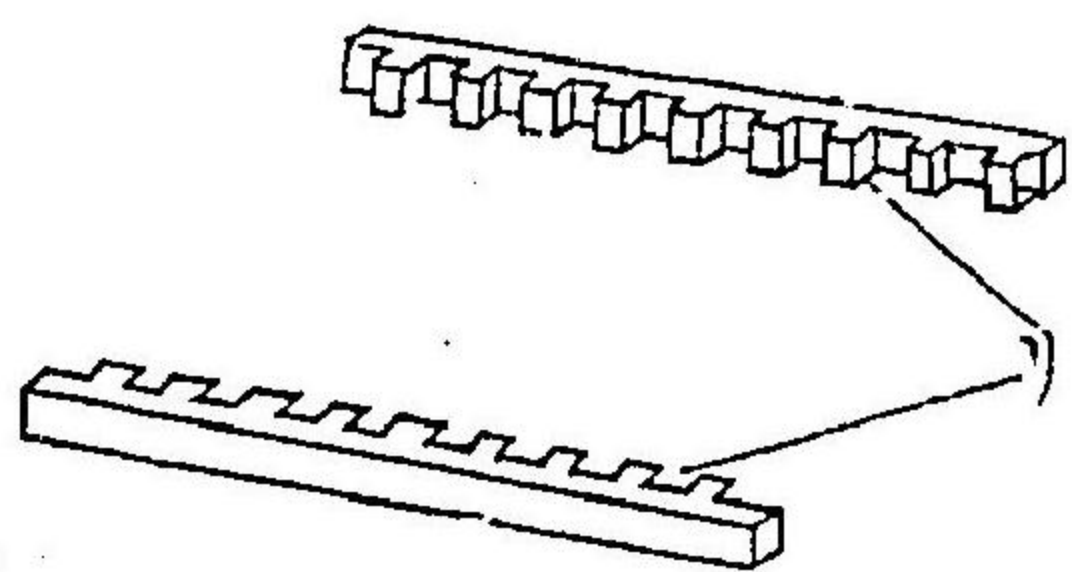
圖四十二第



圖五十二第



第二十六圖



へ框の下邊を差し込み框を固定する爲めにする
扱て蜂群を遠方へ運搬せんには豫ねて此の運搬框を普通の巢箱に入

れ之に巢を造營せしめ置き而して蜂巢を運搬箱に移すには第二十四
圖の洞へ第廿六圖の底を附け螺旋にて止め而して巢を造營せし第廿
圖の框を取り第廿一圖を外づして第廿二圖となし第二十四圖へ入れ
第二十六圖の木片を以て框を固定し上に第二十三圖の蓋を覆ひ螺旋
にて止め又入口を第二十四圖チの木片にて塞ぎ螺旋にて止め而して
運搬をべし

蜜蜂の疾病及害敵

蜜蜂には疾病を起すと甚だ少しと雖ども能く發生するものは下痢病
と此病は重に早春及晩秋に起るものにして此病に罹るときは甚だ
しく巢門を汚し一種の臭氣ある赤黄色の糞を排泄し蜂の舉動甚だ不
活潑となりて労働するもの少なし其の原因は寒氣に感ずると多きと

巢内濕氣多きと又不良の食物を採取したるに起るものにして巢箱の上部密塞せられ蜜の蒸發に依りて巢内濕潤せるか如きは又能く此の病の發生を助くるものなり此病に罹りたるときは蓋及臺ども乾燥したるものを與へ又成る可くは其の巢箱の胴をも乾燥したるものを與へ空氣流通を能くし且つ巢箱を成る可く溫暖ならしむべし又其巢箱の位地陰濕の場所にあらば之を高燥ある場所に移すべし

蜂病中尤も恐る可きものは蜂蛹病(フオールブルツド)なりとす此病は一種のバクテリアにして此病に罹りたるときは房中の蜂蛆腐敗して一種の臭氣を以て巢内を満たし従ひて蜂兒の發生するものなきを以て忽ち全群を絶滅せしむるものにて甚た傳染し易き恐るべき病なり

此病の發生するときは直ちに其巢を焼き棄て以て病毒の蔓延を除き其病に感じたる蜂に附屬したる器具等は之を硫黄にて煮し其病毒を

去りたる後に非らされば之を他の蜂に用ひそ又其病蜂の蜜等は決して他の健全なる蜂に吸はしめず尙ほ病に罹りたる蜂は一匹たりとも他の蜂に混入すべからず斯く注意するときは其病毒の蔓延を防ぐを得へし又た水揚酸は此病毒を防ぐものなるを以つて其の病の初期に當りて巢脾の悪しき部分を切り取り焼き棄て水揚酸液を巢脾及箱に吹き掛け且つ同液を混じたる蜜を與へて蜂を養ふときは或は全快せしむることありと説くものあり是れ多少効なきに非らざるも未だ此の病を全快せしむるに於て保証する能はず宜しく其初期に於て十分其病毒の蔓延を防ぐべし

又蜂の不活潑にして餘り勞働せず王の産卵盛ならずして其原因殆んど探知すると能はざるものあり是濕氣及び巢内餘り密塞に過き或は巢脾の餘り古くなりて其巢脾の種々蜂に不便を生し或は不良の蜜を

採取したるに依るものなり此の如きときは成る可く巢箱を温暖からしめ空氣の流通を善くし巢箱の蓋の下は新鮮なる藁薦を興へ成る可く巢内を乾燥せしめ若し巢脾の餘り古きものは之を取り去り他の巢箱より古からざる巢脾を取りて是に興ふ可し又善良なる食物を製して之に興ふべし

蜜蜂の害敵は多し就中最も大害を爲すものはトヂ虫とモトヂ虫は白色の蛆にして巢脾の中心に絲を以て陰路を造り其の中を往來すると甚だ速かにして蜜及花粉を食食す成長すれば繭を作りて蛹となり化して蝶となり箱の周圍等に産卵を盛なる蜂群には其の害を選ふすると能はずと雖も弱き群にありては其の害甚しく其狀實に見るに忍びざるか如き者なり故に養蜂の秘術は蜂群を盛からしむるを以て最良とす此虫は巢箱の臺に落ちたる花粉其他汚物の中より發生するもの

多ければ時々臺を掃除して其發生を豫防すへし

又蜂虱なる者あり蜂に寄生して生活し往々一疋の蜂に數個寄生するとあり其蜂の体を歩行すると甚だ速かなり其繁殖多きときは蜂群をして衰弱せしむるとあり之を見出すときは必ず捕へ殺すべし

熊蜂も亦蜜蜂の大敵にして多く秋季に蜂群を襲ふものなり是は蜂を食し蜂兒を食するものにして甚だ惡む可きものなり甚しきに至りては數百の熊蜂同時に襲ひ走りて大に慘酷を極め蜜蜂をして止むを得ず他に逃げ去らしむるものあり之を防ぐには隔王板の小なるものを巢門に嵌め熊蜂をして巢箱内に入ると能はさらしめ且見付け次第鋸様のものを以て之を撲ち殺すべし

蟻は甘味を慕ふて巢内に入り蜜蜂をして煩に堪へさらしめ甚しきときは遂に蜂を逃げ去らしむるとあり之を防ぐには巢箱の足の下に皿

も結實に効益あるものに非らず其の液は日光に曝らされて無益に費すのみ左れば蜜蜂の之を吸収せるも決して其の結實に害あるものに非らず夫れ花には必ず雄蕊と雌蕊とあるは皆人の知る所なり而して雄蕊の花粉は作物結實に最も必要なるものにして此花粉の交接するに非らざれば一も結實するものに非らず且つ一花中の雄雌蕊互に相交接するは稀れにして他花の雄蕊花粉の來りて雌蕊に交接し茲に孕娠して結實するもの多きは學者の定説なり就中果實類にありては殊に然りとて扱て此花粉を媒介して交合を全ふするものは誰人の媒介に依るか必しも風と虫類との媒介に依らざるべからず就中虫類の力多きに居るものなり抑も蜜蜂の性たるや飛去飛來勞働する花の何たるを撰まざるか如きも能く注意して蜜蜂の勞働する様を視るに一度巢を出て、歸り來るまでは必ず同一の花を撰んで止まり決して他

種類の花に止まらず且同一種類の花と雖も色澤の異なるときは容易に止らず造物主の獨り蜜蜂に此奇異なる特性を與へたるは花の交接を媒介する重大なる任を此蜜蜂に托せられたる者か又花の中に甘液を自然に生せしむるは蜂蜜等の交接を媒介せしむる勞に酬ゆるの意か天工の妙實に至れりと云ふべし又蜜蜂は花粉を採取すると雖も花中雌蕊は一にして雄蕊は其の數甚多ければ花粉の其効を爲すは幾十分の一に過ぎす其の他は皆無益に飛散するものにて蜜蜂の花粉を採取するは毫も作物に害を與へざるものなり
 蜜蜂の効益夫れ此の如し若し蜜蜂其の他虫類の花粉の交接を媒介するとなく又風の之を媒介するとなからしめは農作物夫れ今日の如く結果を見ると能はざるべし是故に西洋の大農場にては必ず蜜蜂二三個を飼養せざるものなし是れ收蜜の目的にあらすして花粉の交接を

媒介せしむるか爲なりと云ふ
 蜜蜂の効益之に止まらず彼の數多蝶類の翻々として花間を徘徊し花
 蜜を吸収して以て自ら養ふ是れ農家の仇敵たる母害虫に外ならず蜜
 蜂の花粉を採取して此等の食餌を殺ぐは即ち間接なる害虫豫防者な
 り

蜜
 蜂終

明治廿九年三月廿七日印刷
 明治廿九年三月三十日發行

定價金二十錢

版權
 所有

著者兼
 發行者

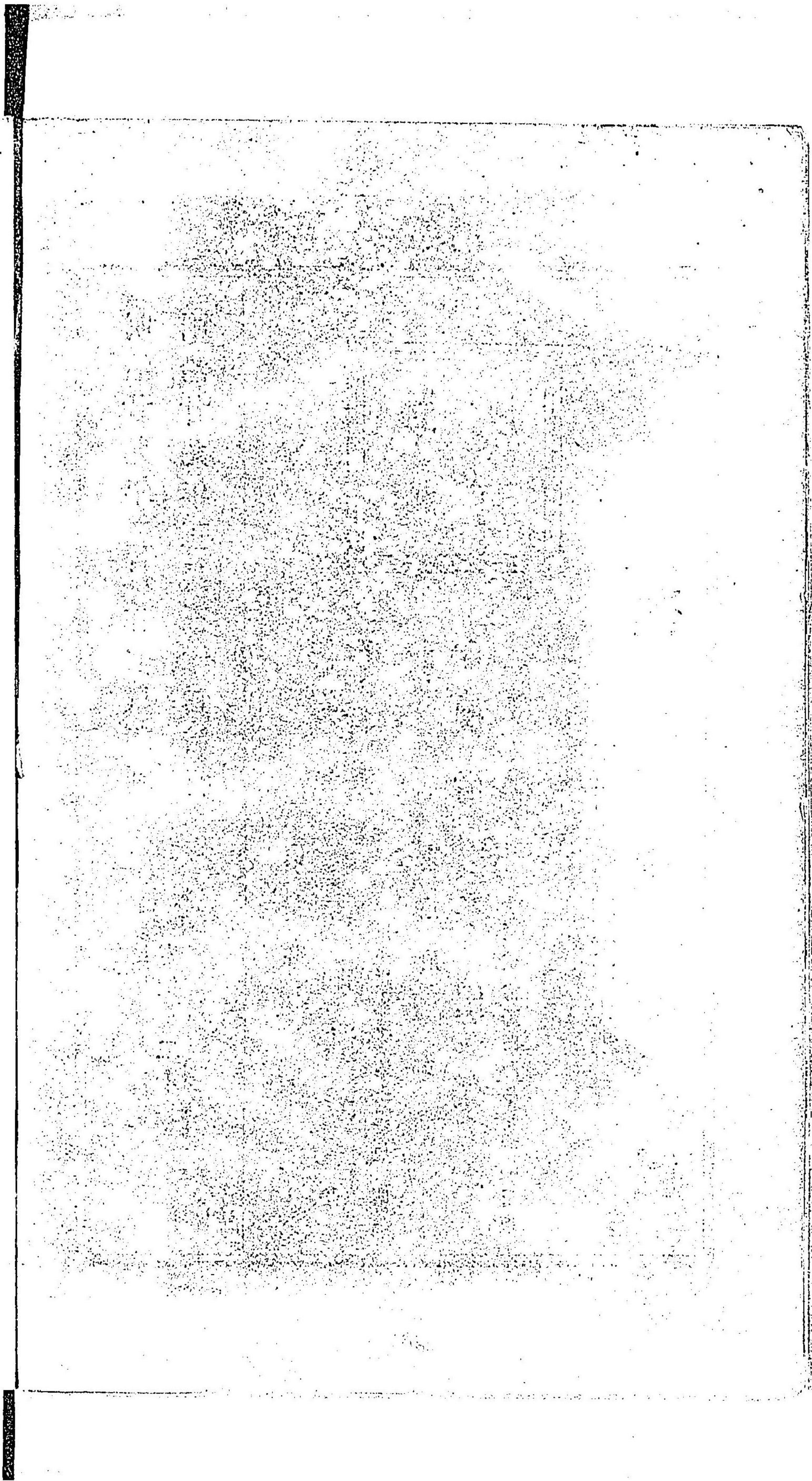
山梨縣
 青柳浩次郎
 東京府
 多田榮次

印刷者

東京市神田區小川町一番地

東京市本郷區駒込上富士前町二番地

發兌
 農業社



18
694

